

[第1学年及び第2学年]目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名/教材名/教科書ページ 学習内容 ★ここが大事/☆学習用語	領域	時	学習活動/＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	3	なかよしの みち 教科書:P1 □挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。	読む	1	1. 挿絵をもとに話を想像し、気づいたことを話し合う。 ・季節はいつか ・登場人物は ・どんなお話か ＊国語学習のスタートにあたり、言葉の楽しさを味わい、国語への期待を高めるような展開を心がける。学習ルールも大事だが、はじめは、どんなことを言っても温かく受け入れる雰囲気を作ることが大切である。 ＊登校の場面だが、動物の形の雲や水たまりに宇宙が見えるなど、現実の中に非現実の世界が描かれている。「こうなったらいいな」と想像することの楽しさを感じさせる。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1)イ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見直しをもって内容や感想を話し合おうとしている。
					2	2. (一)・(二)・(三)の場面から想像したことを話し合う。 (1)場面を比べて気づいたことを話し合う。 (2)声に出して読む。 (3)登場人物がどんなことを話しているか話し合う。 ＊友達と会ってから学校に着くまでを比べ、変化を話し合う。 ＊どんなことがあったのか挿絵の人物になって発表させる。 ＊隣の席で組みになり自由に絵を見て気づいたことを話させる。	
					3	3. このお話ですてきな、いいなと思うところはどこか、話し合う。 (1)登場人物や背景となっているさまざまなもの、表情などに着目させ、発表させる。 (2)なぜそう思ったのか、理由が言えたら発表する。 ＊挿絵の細かい部分までよく見て考えさせる。 ＊話したことを聞き合うことのうれしさを感じさせたい。	
1学期	4月	2 (話す聞く2)	あかるい あいさつ 教科書:P6 ◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。	話聞	1	1. 挿絵の表情に着目し、どんな挨拶をするとよいか、楽しい一日を送るのに大切なことを考える。 (1)朝の登校の絵から挨拶の様子を話し合う。 ・誰と挨拶しているか ・何を言っているか ＊P5から繋がり、P7では公園まで一緒に帰っており、P1に戻っている。楽しい一日のためには、心をこめた挨拶や言葉かけが大切であることに気づかせる。 ＊「おはようございます」の挨拶だけでなく、相手を思いやる言葉も大切であることを知る。例えば「今日、一緒に遊ぼうね」「きのうはありがとう」など。 (2)自分の挨拶はどうか、振り返る。 (3)挨拶の練習をする。 ＊「挨拶名人」の観点を話し合って決め、教室に掲示しておくよ。 (観点の例)相手に聞こえる声で はっきり 相手の目を見て 笑顔で 自分からすすんで など ＊教師対児童、児童どうしで、挨拶の練習をする。地域のかた、校長先生、担任の先生、主事さん、知らない先生など、役割を決めて挨拶する。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア 【態度】 ・積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見直しをもって挨拶をしようとしている。
					2	2. 挿絵をもとに、学校生活のさまざまな場面での挨拶や言葉のかけ方を練習する。 ・朝、教室に入るとき ・教室で教師に「はい」と返事をするとき ・来校者を迎えるとき ・職員室に入るとき ・給食を食べるとき ・お礼を言うとき ・謝るとき ・さようならするとき ＊隣の席の人と組みになり、役割を決めて挨拶の練習をする。 ＊言葉だけでなく、身ぶりや表情も交えながら、はっきりと話させる。姿勢や口形にも留意させたい。 ＊組みになり、双方が言葉をかけ合うことが大切である。 (例) A「ぶつけてごめんね。だいじょうぶ？」 B「だいじょうぶだよ」 など ＊みんなの前で行ったり、友達の挨拶を聞いたりして、よい挨拶の仕方を理解する。あえて、よくない例を教師が示すと、考えを深めるきっかけとなる。 ＊今後も、相手や場を考えて、進んで適切な挨拶をすることを確認し、よい挨拶をしている姿を褒めて広げていく。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	わたしの なまえ 教科書:P8 ◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。	話聞	1	1. P8を見て、学習のねらいと流れを知る。P9に名前の練習をする。自分の名前をカードに書き、自分の名前を友達に知らせる。 (1)自分の名前をカードに書く。好きな絵を描きたす。 (2)隣の人と名前カードを見せながら紹介し合う。 ＊紹介活動後、教室内に掲示できるように、画用紙などの大きめの用紙を用意する。 ＊名前は、ゆっくり大きく書くように指導する。名前のほかに、自分の好きなことなどを絵に描くとよい。(好きな花、動物、大切なものなど) ＊紹介の仕方を練習する。「私は〇〇です。よろしくお願いします。」など、二文程度言えるとよい。 ＊第一声がかかなかかない子には、教師がそばで言葉を添えるなどして、勇気づける。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア) 【態度】 ・積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。
					2	2. 紹介の仕方がわかり、学級のいろいろな人と進んで名前を紹介し合う。 (1)座ったままで、前後・左右の友だちと紹介し合う。 (2)席を離れて、自分から相手を見つけて紹介し合う。 ＊スモールステップで少しずつ紹介する相手を広げていくようにする。 ＊安全面に留意し、席を離れて動くときは歩くように指導する。 ＊紹介できた人数を○で記録したりシールを貼ったりして励みになるよう工夫する。 ＊慣れてきたら、自分の得意なことや「今度一緒に遊ぼう」など、自分で考えた言葉を添えさせる。	
1学期	4月	2	おはなし たくさん ききたいな 教科書:P10 △さまざまな本の読み聞かせを通して、読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 ☆学習用語:お話	読書	1	1. 教科書の挿絵を見て、知っている本について話し合う。 ＊登場人物やあらすじ、おもしろさなど、本に関する話を大切にする。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ) 【態度】 ・積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
					2	2. 絵本の読み聞かせを聞く。 ＊挿絵にある絵本は、読んでもらった経験のある児童が多いと思われる。絵本の題名や登場人物などを発表させる。また、読み聞かせの経験を想起させ、好きな絵本を発表させ、絵本への関心を高める。 ＊読み聞かせをした絵本は、教室内に展示しておく、自分でも読んでみようという意欲が高まる。 3. 絵本の読み聞かせを聞き、好きな場面について、簡単な感想を発表する。 ＊おもしろかったところを自由に発言できるようにする。 ＊本時に限らず、日常的に読み聞かせを行い、読書への関心を高めていきたい。	
1学期	4月	1 (話す聞く1)	こえの おおきさ どれくらい 教科書:P12 ◇挿絵をもとに、場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ☆学習用語:声の大きさ	話聞	1	1. 教科書の挿絵からどういう場面か、声の大きさはどれくらいがよいか、話し合う。 ＊声のものと対応させながら考える。教室掲示し、日常的に声の大きさを意識させたい。 ＊なぜ声の大きさを考える必要があるか問い、場面に応じた話し方が大切だと気づかせる。 2. 実際に声の大きさを考えてやってみる。 ・授業中、校内の廊下を歩くとき ・隣の人と話し合うとき ・学級で話し合うとき ・校庭で遠くの友達を呼ぶとき ＊夢中になるとつい大声になってしまう児童もいれば、恥ずかしがって小さな声しか出せない児童もいる。実態は一人一人違うが、場面を想定して楽しく活動できるよう工夫する。 ＊それぞれの場面で何を話すのか、言葉を決めておくと活動しやすい。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア) 【態度】 ・積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって話そうとしている。
1学期	4月	3	かいて みよう 教科書:P14 △正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて、線をなぞったり文字を書いたりする。	言語	1	1. 文字を書くときの正しい姿勢と鉛筆の持ち方を知る。 (1)挿絵や写真を見て正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて、線をなぞる。 (2)姿勢と持ち方に気をつけて、運筆練習をする。提出されている線をなぞって書く。 ＊入門期に鉛筆の持ち方を、きちんと指導することが大切である。全体に指示するだけでなく、一人一人の持ち方を個別に見て指導する。 ＊鉛筆の持ち方、姿勢の写真を教室に掲示し、日常的に指導を続けることが大事。曲がり方・丸め方、とめ・はね・はらいをゆっくり丁寧に書かせる。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【態度】 ・進んで平仮名を読んだり書いたりし、学習課題にそって言葉を書こうとしている。
					2・3	2. 提出されている言葉を読んだり、挿絵と言葉に対応させたりして平仮名を練習する。 (1)P16の平仮名を書く。 ・教師が書くのを見る ・教師と一緒に空で書く ・教科書をなぞる→ワークシート→ノート (2)P17の平仮名を練習し、組み合わせを変えて他の言葉も書く。 ＊一画または二画で構成された易しい平仮名である。ゆっくりと書かせたい。 ＊最初に学んだ「く」「つ」「と」「り」の四文字のほか、「いしの」を新たに練習させる。習った文字を組み合わせて違う言葉を書くことで語彙が広がる楽しさを実感させたい。 ＊P17「ほかに、かけるかな。」では、挿絵と言葉に対応させて平仮名を読む。ほかには「くし」「つ」など。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	1 (話す聞く1)	こえを あわせて あいうえお 教科書:P18 ◇姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはつきりした発音で読む。	話聞	1	1. 「こえを あわせて あいうえお」を、教師のあとについて音読する。 ＊何度も読み、声の速さや、はつきりした発音などに慣れさせる。 2. 「こえを あわせて あいうえお」を音読し、リズムのよさや声を合わせる楽しさを味わう。 ＊リズムの心地よさや、全員で声を合わせる楽しさを味わい、覚えるくらい読みこむと、姿勢や口形に気をつける余裕が出てくる。 ＊単に大声を出すのではなく、声をそろえるように指導する。 ＊全員で読む、一人で読む、交代で読むなど、読み方に变化をつける。 ＊友達の読みを聞くことも大事にする。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア 【態度】 ・積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって音読しようとしている。
1学期	5月	1	あいうえおを つかおう 教科書:P20 △母音や簡単な平仮名を正しく読んだり書いたりするとともに、音節と文字の関係に気づき、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。	言語	1	1. 挿絵を参考にしながら、「あいうえお」で始まる言葉を見つけ、声に出して読む。 ＊二音または三音で構成されている言葉を、それぞれ読む。手拍子を打ちながら読むと、音節が意識できる。 2. 姿勢・鉛筆の持ち方に気をつけて、平仮名を丁寧に書く。 ＊筆順に気をつけて、ゆっくりと書くようにする。書く前に、鉛筆を持って空に書くようにし、筆順を確かめる。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【態度】 ・積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって声に出して読もうとしている。
1学期	5月	3 (話す聞く3)	みつけて はなそう、はなしを つなごう 教科書:P22 ◇挿絵をもとに話題を見つけて話し合い、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり応答したりする。	話聞	1	1. 挿絵を見て、誰がいるか、どんなことをしているかなどを話し合う。 ＊挿絵を見て気づいたことを自由に発表しながら、興味を高めていく。 ・誰がいるか ・どんな遊びをしているか ・どんな生き物がいるか など	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A1)オ 【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A2)イ 【態度】 ・積極的に互いの話に関心をもち、学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。
					2	2. 挿絵から話題を見つけ、例示のように二人で組みになって話したり、話を聞いて尋ねたりする。 ＊細かい部分にも目を向けさせたい。挿絵の中の話題だけでなく、自分が好きなことや今後やってみたいことなど、挿絵から離れた発展した話題が出るとうい。	
					3	3. 前時と二人の組み合わせを変えて、いろいろな話題で話し合う。 ＊挿絵のように、相手の言葉を受けて答える双方向の会話になるよう留意する。	
1学期	5月	2 (書く1)	かきと かぎ 教科書:P24 △清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく文を書く。 ☆学習用語:丸(。)/文	言語	4	4. 挿絵と言葉に対応させながら、清音・濁音・半濁音の言葉を声に出して読む。 (1)書き順に気をつけながら新出文字を書く。 (2)濁点の書き方を理解する。 (3)教科書にある清音・濁音・半濁音の言葉を読み、書き方に気をつけて書く。 (4)P25の濁音の混じった言葉遊びの詩をリズムよく音読する。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題にそって簡単な文を書こうとしている。
					5	5. 主語・述語に気をつけて、文を書き、文の終わりに句点(。)をつける。 (1)P25の「やぎがいる。」をなぞる。 (2)主語と述語を考えて簡単な文を作る。 ＊提示された文を声に出して読み、ノートに書く。P22・23の「みつけて はなそう、はなしを つなごう」の挿絵を参考にしながら、主語と述語の簡単な文を考えて、発表する。 ＊練習の活動として、主語を決めて述語にあたる部分に言葉を入れさせ、慣れてきたら述語にあたる言葉を決め、主語を考えさせるようにして、主語と述語の照応を意識づける活動を取り入れてもよい。また、文末を現在進行形や過去形で表現しても、ここではこだわらない。	
1学期	5月	2	ことばを あつめよう 教科書:P26 △言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、言葉を考えて読んだり、書いたりする。 ☆学習用語:言葉	言語	6・7	6. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読む。 ＊書き順に気をつけながら新出文字を練習する。 ＊P26・27の新たに提出された平仮名を、挿絵と対応させながら声に出して読み、書く。 7. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。 ＊新たに提出された11文字の平仮名の書き方を理解し、語句としての意味のまとまりを考えながら、正しく書く。 ＊「そ」「ぬ」「み」は折れや曲がりに気をつける。「ぬ」「み」は書きだす位置に気をつけると形が整いやすい。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ 【態度】 ・進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	3	くまさんと ありさんの ごあいさつ 教科書:P28 □登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。	読む	1	1. 短いお話の概要をつかんで、楽しく音読する。 (1)挿絵を参考にしながら、誰が出てくるか、どんな様子かの大体をつかむ。 ＊挿絵を見て、お話に興味をもたせる。 ＊挿絵や、挨拶の文字の大きさの違いから、大きな「くまさん」と小さい「ありさん」の対比に気づかせる。 (2)教師の範読を聞き、お話の概要を知る。 ＊教師の範読を聞きながら、指で文字を追って読ませる。教師の読む速さについてきているか、確かめながら読むようにする。 (3)語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。 ＊音読するとき、読点「、」や句点「。」はくぎること、特に句点は間をあけることなどに気をつけさせる。 ＊促音「っ」に気をつけて、リズムよく読めるように、「せおって」や「しっかり」などを取り上げて、何回か練習するとよい。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
					2	2. 登場人物の様子を想像しながら、工夫して音読する。 (1)どんな「くまさん」と「ありさん」か、想像したことを発表する。 ＊どんな「くまさん」か考える。 ・体が大きく、声も大きい ・優しい(そつとすれちがうから) ・のっそりした感じがする など ＊どんな「ありさん」か考える。 ・体が小さく、声も小さい ・働き者(大きな荷物を背負っているから) ・しっかりしている など (2)「くまさん」と「ありさん」の言葉を確認、それぞれどのように読むとよいかを話し合い、声の大きさや読む速さを工夫して音読する。 ＊「くまさん」らしさ、「ありさん」らしさを考えながら音読する。文字の大きさの違いにも着目して読むように助言する。 ・「くまさん」はゆっくり、低い声で ・「ありさん」は早口で、高い声で ・地の文は聞こえやすいようにはっきりと読む など	
					3	3. 音読を発表したり、友達の音読を聞いたりして、音読を楽しむ。 (1)さまざまな形態で音読を楽しむ。 ＊音読を楽しむために、さまざまな形態で読む。 ・斉読する ・教師と児童とで交代で読む ・3人グループで役割分担して読む(「くまさん」・「ありさん」・ナレーター) (2)友達の音読に興味をもって聞く。 ＊友達の発表を最後まで聞き、拍手したり、よかったところを伝えたりする。	
1学期	5月	2 (書く1)	ねこと ねっこ 教科書:P32 △促音の読み方と書き方、句読点の使い方を理解する。	言語	4	4. 挿絵を見ながら、促音のついた言葉とつかない言葉を、読んだり書いたりする。 (1)手拍子を打ちながら、音節を意識して音読する。 (2)促音の表記の仕方を知り、ノートやワークシートに書く。 ＊提示された言葉のほかに、促音のついた言葉を集めたり、教科書にある促音を使った短い詩を、リズムよく読んだりする。 ＊促音「っ」の書き方をおさえる。 ・まず目の中の書く位置 ・大きさ ＊促音の「っ」は、それ自体は発音しないが、言葉の中では一拍(一音)として数える。拍としてきちんと数えられれば、表記の抜けが起らないので、手で拍子をとりながら読むなどして、拍を意識づけたい。 ・きって せつけん など	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題にそって簡単な文を書こうとしている。
					5	5. 助詞「は」の使い方、読点(、)や句点(。)の打ち方に気をつけて文を視写する。挿絵を参考に、簡単な敬体の文を考える。 ＊考えた文「……は、……」をノートに書く。 ＊言葉につく助詞の「は」、「ワ」と読み、言葉と言葉をつなぐはたらきをしていることをおさえたい。助詞の「は」は文節のくぎりははっきりさせている。 ＊このあとの教材でも助詞の「は」について復習する機会があるので、ここでは言葉をつなぐはたらきを意識づけるにとどめてもよい。 ＊主語と述語で構成された簡単な文を考え、句読点を正しく入れて文を書く。教師がゆっくり板書し、それを見てノートに書かせる。	
1学期	5月	3	ほんを よもう 教科書:P34 △読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や教師に話したりして、読書に親しむ。	読書	1	1. 教科書に紹介されている絵本の表紙や題名を参考に読みたい本を選び、読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりする。 ＊ふだんから読み聞かせをし、絵本への興味を高めておく。教室に絵本を置き、いつでも手に取れる読書環境を整えておくことも大切である。 ＊教科書で紹介されている絵本は、できるだけ地域の図書館などを活用し、実物を用意する。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。
					2・3	2. いろいろな本を読み、おもしろかったところを友達と伝え合う。 ＊学校図書館の絵本コーナーに行き、活動するとよい。 ＊本を選べない児童には、個別に声をかけ、教師と一緒に読んだり、興味をもちそうな本を薦めたりする。 ＊気に入ったページを見せながら、おもしろいところを伝えるようにさせると、交流が具体的になる。 ＊児童のおすすめの絵本は、児童の名前をつけて教室に展示すると、いろいろな本を読んでもみようという意欲が高まる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	2 (書く1)	ことばをつなごう 教科書:P36 △意味による語句のまとまりを考えて、つながる言葉を書く。	言語	4・5	3. 挿絵を見ながら、矢印の向きにそって提示された言葉を読み、空欄にどんな文字が入れば言葉がつながるかを考える。 ＊新たに提出された平仮名10文字を、挿絵と対応させながら意味を考えて声に出して読む。空欄には、どんな文字が入ればよいか、考えて発表する。 4. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。 (1)新出平仮名の練習をする。 (2)「を」の読み方や使い方を学び、「……を……」の文を考えて書く。 ＊新たに提出された10文字の平仮名の書き方を理解し、語句としての意味のまとまりを考えながら、正しく書く。 ＊花の名前や野菜の名前など、教科書の中から仲間の言葉を取り出させ、知っている言葉を加えていこうとするなど、語彙の拡充と合わせて扱ってもよい。 ＊「を」は「オ」と読み、助詞以外で使われることはないが、必ず言葉について言葉どうしをつなぐ役割があることをおさえたい。なお、助詞のはたらきについては、このあとの教材でも扱う機会があるので、少しずつ使い方に慣れさせていけばよい。	【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題にそって読んだり書いたりしようとしている。
1学期	5月	1	たのしく よもう 1 あいうえおの うた 教科書:P38 △様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。	言語	1	1. 言葉のまとまりや意味を考えたり、リズムをつかんだりして、『あいうえおの うた』を楽しみ音読する。 ＊範読で、心地よいリズムやアクセント、イントネーションなどを意識させる。 2. 一人で読む、斉読する、交代で読むなど、さまざまな形態で音読を楽しむ。 ＊声をそろえる、あ行、か行と列ごとに交代して読む、教師と交互に読み合うなど、読み方に変化をつけると、繰り返し音読を楽しめる。 3. 『あいうえおの うた』を視写する。 ＊視写を通して、平仮名の五十音を正しく書くようにする。 ＊全文を視写するのは負担が大きいため、詩の一部を視写するワークシートを準備するなど、実態に合わせて取り組ませる。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【態度】 ・進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
1学期	5月	1	ごじゅうおん 教科書:P40 △五十音表を見て、平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 ☆学習用語:五十音	言語	2	4. 五十音表を見て、平仮名を縦に音読したり、横に音読したりする。 ＊写真の口形を参考にはっきりとした発音、口形、姿勢で読む。縦に読んだり、横に読んだりして、気づいたことを発表する。 ＊濁音・半濁音の列も、声に出して読む。 5. 書きにくい平仮名や、まちがえやすい平仮名を取り上げて練習する。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【態度】 ・積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。
1学期	5月	5	けむりの きしゃ 教科書:P42 □文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	読む	1	1. 挿絵を見ながら全文を読み、感想を話し合う。 ＊全文を読む前に四つの場面の挿絵を見て、概要をつかむ。 ＊挿絵を見ながら全文を読み、感想を発表する。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1)イ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。
					2	2. お話のあらすじをつかみ、各場面の挿絵をもとに、あらすじを説明する。 ＊挿絵をもとに教師がリードしながら、全体であらすじを確認する。やり方がわかったら、自分の言葉であらすじを言い、友達に聞いてもらう。	
					3	3. おじいさんの人柄を考える。 ・どんな仕事をしているか ・どんな性格の人物か ・まきを燃やしたのはなぜか ＊場面の様子やおじいさんの行動から、人柄を想像する。 ・えんとつそうじとはどんな仕事か ・おじいさんは優しい→なぜそう思ったか ・挿絵のかまどが真っ赤になっているのはなぜか	
					4	4. 空へ上っていくながれぼしと、それを見ているおじいさんの、それぞれの言葉を想像する。 ＊ながれぼしの言葉から、ながれぼしの感謝の気持ちを想像する。音読の仕方を工夫させるとよい。 ＊「」は、会話文につく記号であることを理解させる。	
					5	5. 登場人物に手紙を書き、発表し合う。 ・おじいさんに ・ながれぼしに ・二人に ＊登場人物に手紙を書く。物語全体を振り返ってから書かせるようにする。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	2	のぼす おん 教科書:P48 △長音の読み方と書き方を理解する。 ☆学習用語: 伸ばす音	言語	6	6. 長音の読み方や書き方を理解し、長音の入ったいろいろな言葉を、読んだり書いたりする。 ＊エ列長音の「とけい」やオ列長音の「おとうさん」のように、表記と読み方が違う言葉がある。何度も読みながら慣れるようにする。特にエ列長音は、「え」で表記するのは「おねえさん」「ええ(応答)」のみで、「い」と表記する特例のほうが多い。児童に慣れさせるためにも、言葉が出てきたときに、そのつど注意を喚起させたい。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【態度】 ・積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見直しをもって読んだり書いたりしようとしている。
					7	7. P49の長音の入った詩をリズムよく読んだり、視写したり聴写したりする。 ＊促音と同様、長音も一音(一拍)を数えることを意識づけたい。言葉を読むときには、手で拍子を取るなど工夫することが大切である。 ・おじいさん おじさん ＊教科書に提示されたほかにも、長音の入った言葉を児童に発表させ、読んだり視写したりする。	
1学期	6月	3 (書く3)	せんせい、あのね 教科書:P50 ■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書く。	書く	1	1. 挿絵をもとに見直しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1)身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。 (2)P51の文例を読み、視写する。 (3)文例を参考に、知らせたいことで、思いついたことを発表する。 ＊初めての文を書く学習である。一人一人と話し、書きたいことを教師が聞き出しておく。つまりがちな児童には、教師が聞き取ってメモを取り、それを文に書くように支援する。この段階では、一文が書けたら十分である。 ＊最近のできごとの中から伝えたいことを決める。相手意識を明確にもたせながら、うれしかったこと、がんばったことなど、心に残ったことを思い起こさせる。 ＊伝えたいことを全体で話し合ったり、隣どうして話し合ったりすることで意識を掘り起こし、題材を決めやすくする。	【知識・技能】 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア
					2	2. 伝えたいことを書く。 (1)伝えたいことを話し言葉で文に書く。「せんせい、あのね」の書きだして書いてみる。 (2)書き終わったら、声に出して読み返し、直すところがあれば直す。 (3)書き終わった人どうして、交換して読む。 ＊児童が発表した話し言葉を、そのまま文に表す。書く抵抗をなくすために大事なステップである。 ＊例文を参考に話し言葉で書き、友達と交換して読み合う。	【態度】 ・進んで主語と述語との関係に気づこうとし、学習の見直しをもって簡単な文章を書こうとしている。
					3	3. 「……は、……へ ……た。」の文例を読み、ノートに視写しながら文章に慣れる。 ＊児童の書く文章は、「せんせい、あのね……」の口語体のままでよい。	
1学期	6月	4 (話す聞く4)	みんなに はなそう 教科書:P52 ◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。	話聞	1	1. 挿絵を見て、学習のねらいや方法を知る。身近なことや経験したことの中から、どんなことを話しか、話題を考える。 ＊話題を決める前に、経験や身近な事を、話し合いながら十分掘り起こす。 ・好きな食べ物や得意なこと ・できるようになったこと ・大切なもの ・楽しかったこと など	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A1)ア ○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア
					2・3	2. 話したいことを絵に描き、それをもとに二文程度の文を作り、話の準備をする。 ＊最初の一文は、「わたしは、……です。」「ぼくは、……です。」で話すようにする。 ＊発表の前に、教師は一人一人の話を事前に確認する。	【態度】 ・積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけ、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
					4	3. グループで発表し、感想やよいところを伝える。 ＊発表でつまづきがちな児童には、教師が傍らであいづちをうったり、次の言葉を促したりして、支援することも大切である。 ＊話の聞き方を事前に話し合い、約束を決めておくことよい。 ＊できるだけ感想を伝えるようにしたいが、心から拍手をするなど、聞く雰囲気作りも大切である。	
1学期	6月	1	たのしく よもう 2 がぎげごの うた 教科書:P54 △様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。	言語	1	1. 言葉の意味を考えながら、『がぎげごの うた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 ＊範読で、イントネーションやリズムのよさをつかませる。 ＊音読する際には、姿勢や口形、声の大きさ、速さに注意しながら読むように声をかける。 ＊斉読、が行、ざ行と列ごとに交代で読む、教師と交互に読む、隣どうして読む、一人で読むなど、音読の形態を変えながら、繰り返し音読する。 2. 『がぎげごの うた』を視写する。 ＊視写をとおして、濁音・半濁音の文字を正しく書けるようにする。 ＊視写が負担にならないように、実態に応じて部分を視写するなどの配慮をする。	【知識・技能】 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【態度】 ・進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけ、学習の見直しをもって音読しようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	4 (書く4)	よくみて かこう 教科書:P56 ■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 ☆学習用語:絵日記	書く	1	1. 身近で育てている植物などをよく見て、絵と文に書くことを知る。 (1)実際に観察し、特徴や小さな変化に気づく。 * 教師は、児童が観察しているところを見回りながら、特徴や小さな変化に気づいた児童に声をかけ、褒めるようにする。 (2)全体の様子や気づいたこと、触った感じや自分の思いなどをカードに書く。 * 絵を描くことに夢中になりすぎないように、絵を簡単に描くようにし、文を書く時間を確保させるようにする。 * 横書きの書き方(促音、拗音の位置)、文末の敬体表現を確かめる。	【知識・技能】 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア) ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア)
					2・3	2. 絵に色を塗ったり、文を読み返してまちがいを直したりして、観察カードを完成させる。 * 書く観点やポイントを示す。3文程度を目安とする。 ・日付、曜日を書く ・自分の名前を書く ・全体の様子、よく見て気がついたこと、小さな変化や大きな変化を書く ・自分の願いや思ったことを書く	【態度】 ・進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。
					4	3. お互いに書いたものを読み合う。 * 「いいな」と思ったことを書いた人に伝える。 * 読み合う方法は、掲示してもよいし、机の上に置いて一人一人が席を移動しながら読み合うかたちもよい。 「いいな」と思ったら、付箋やシールを貼るなどして目に見える形を残すとよい。 * まだ促音や拗音、助詞の書き方等に慣れていない児童もいる。読み返しても気づかない場合は、事前に教師が直してあげることも必要である。	
1学期	6月	6	すずめの ぐらし 教科書:P58 □問いの文や写真に導かれ、すずめについて説明した文章を読む。	読む	1	1. 題名や写真から、すずめについての興味を高めるとともに、学習への意欲をもつ。 * 「問い」「答え」に気をつけながら、すずめについて説明した文章を読むという学習の流れを意識づけ、意欲を高める。 2. すずめについて知っていることを話し合う。 (1)題名の中の言葉「すずめ」「すずめのぐらし」をもとに話し合う。 (2)教科書の写真を手がかりにしながら、自分がすずめについて知っていることを話し合う。 * すずめについて自由に話し合い、知っていることをたくさん出させる。 * 題名中の「ぐらし」に着目させ、話し合う。 * 教科書の写真を見て、知っていることを話し合ったり、何をしているところか予想したりする。話し合いをとおして、すずめという身近な鳥にも「知らない面」があることに気づくようにする。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C1)ア) ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ) 【言語活動例】 ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C2)ア)
					2~4	3. 文章のまとまりごとに、写真や問いの文を手がかりにしながら、『すずめのぐらし』を読む。 (1)写真からわかることを話し合う。 (2)写真からわかったことを手がかりに、問いの文「なにをしているのでしょうか。」の答えを予想する。 (3)答えの文を読み、写真とも結びつけて、文章の中の大事な言葉に着目して、内容を確認する。 * P58、59を読み、写真を詳しく見て、気づいたことを話し合う。(例)「どれも、草が生えているところにいる」「みんな下を向いている」など。 * P60を読み、写真のすずめが草の種をくわえていることを確認し、前ページの写真と比べて、わかったことを話し合う。(例)「下を向いていたのは、地面をつついていたから」「地面にある食べ物を探していた」など。 * P61を読み、写真を詳しく見て、気づいたことを話し合う。(例)「浅い水たまりにいる」「水が飛び散っているようだ」など。 * P62を読み、写真のすずめが翼を動かしていることを確認し、前ページの写真と比べて、わかったことを話し合う。(例)「浅い水たまりだから、水浴びしやすい」「泳いではいない」など。 * P63を読み、写真と比べて確認したり、新たに思い出した経験を話し合ったりする。(例)「公園の木に、すずめがたくさん止まっていた」「(住宅地の)コンクリートの壁にすずめがいるのを見た」「庭の桜が咲くと、すずめが集まってくる」など。	【態度】 ・積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもってわかったことや思ったことを紹介しようとしている。
					5	4. 文章を読み返して、わかったことを確認したり、はっきりした発音で音読したりする。 * 文章を読む前から知っていたことと、文章を読んで初めて知ったこととを区別して、発表したり、学習の感想を書いたりする。 * 助詞の「は」「を」、拗音(「ちやいろ」)・拗長音(「……しょう」)などに注意して音読する。	
					6	5. 鳥もしくは動物について書いた絵本や図鑑を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことを紹介し合う。 * 身近な鳥や動物を中心に、絵本・図鑑などを選ぶ。 * 自由に本を選んで読み、簡単な交流をすることでいろいろな本があることを知り、読書の楽しさを味わう。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	6月	2	しゃ、しゅ、しよ 教科書:P64 △拗音や拗長音の読み方と書き方を理解する。	言語	7	6. 清音と拗音との違いに気をつけて、拗音や拗長音の言葉を正しく音読する。 (1)教師の範読を聞いたあと、音読する。 ＊各自で読む、斉読する、縦や横の列ごとに読むなど、変化をつけて楽しく読むようにする。 (2)「しゃしん」「あくしゅ」「しよつき」をノートに視写する。 ＊発音しながら挿絵を見て、言葉の意味を確認する。単語を音読したらP65の表を読む。縦に読んだり、横に読んだりして拗音の表記や読み方に慣れさせる。 ＊拗音の指導は、単語の表記としては定着が難しいので、書く際には、繰り返し注意を促したい。拗音は二文字で一音節(拍)となるため、書くときに「ゃ」「ゅ」「ょ」が脱字となりやすい。手で拍子を取りながら読むなどして、音数と表記の違いに慣れさせる。 ・しゃしん あくしゅ ＊拗音の「ゃ」「ゅ」「ょ」を書く場所と大きさを、板書でわかりやすく示す。 ＊正しく書けているか、友達と確かめ合わせるとともに、机間指導で確認する。 ＊拗促音、拗長音は、促音の「っ」、長音がそれぞれ一拍(一音)なので、拗音と組み合わせると二音になる。児童にはできるだけ書いて慣れさせるようにする。 ・しよつき しゅつぱつ ぎゅうにゅう びょういん	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【態度】 ・積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
					8	7. 拗音や拗長音を含む言葉を視写したり、言葉を集めたりする。 (例)きょうしつ おちゃ ひょうし など (1)「びょういん」と「ひょういん」の違いに気づき、正しく視写する。 (2)P65の詩を音読し、ノートに視写する。 (3)拗音の入った言葉を集め、ノートに書く。 ＊P65の詩を読み、拗音や拗長音を含む言葉を見つけさせる。 ＊拗音を含む言葉を集めさせる。ノートに書く際は、板書で正しい表記を示すようにする。	
1学期	6月	1	たのしく よもう3 きゃきゅきよの うた 教科書:P66 △様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。	言語	1	1. 言葉の意味を考えながら、『きゃきゅきよの うた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 ＊範読で、イントネーションやリズムのよさをつかませる。 ＊音読する際には、姿勢や口形、声の大きさ、速さに注意しながら読むように声をかける。 ＊斉読、きゃ行、しゃ行と列ごとに交代で読む、教師と交互に読む、隣どうしで読む、一人で読むなど、音読の形態を変えながら、繰り返し音読する。 2. 『きゃきゅきよの うた』を視写する。 ＊視写をとおして、拗音の文字を正しく書けるようにする。 ＊視写が負担にならないように、実態に応じて部分を視写するなどの配慮をする。	【知識・技能】 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【態度】 ・進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけ、学習の見通しをもって音読しようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
1学期	7月	9 (書く9)	しらせたい ことを かこう 教科書:P68 ■身近なできごとから知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。	書く	1	1. 挿絵をもとに単元の見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1)身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。 * 既に『せんせい、あのね』よくみて かこう』の学習で、文を書く経験をしている。ここでは、身近なことから題材を決め、整った文を二文程度書く学習である。 (2)P68・69を読んで、「誰に」「何を」伝えたいか考える。 (3)思いついたことを発表する。 * 題材を掘り起こす段階なので、自由に幾つでも発表させる。	【知識・技能】 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ)	
					2	2. 伝えたいことを決める。 (1)前時で話し合ったことを参考に、何を書くか、誰に伝えるかを考える。 (2)隣どうして、何を誰に伝えたいか話す。 (3)全体にも紹介する。 * 最近のできごとの中から伝えたいことを決める。相手意識をもたせ、うれしかったこと、がんばったことなど、心に残ったことを思い起こさせる。 * 伝えたいことを全体で話し合ったり、隣どうして話し合ったりすることで意識を掘り起こし、題材を決めやすくする。 * ノートに題材と伝える相手を書く。(題名はまだ決めなくてもよい。)		【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)
					3	3. 敬体で文を書くことを知る。 (1)P70の文例を読み、「……は、……ました。」のような敬体で書くことを知る。 (2)いろいろな言い方を敬体に直す練習をする。 * いろいろな敬体の言い方を発表し、敬体に慣れておくようにするとよい。		【態度】 ・積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。
					4~6	4. 伝えたい相手を決めて文章を書く。 (1)伝えたい相手を考えながら二文程度の文を書く。 (2)題名を決める。 * 誰に何について知らせるか考え、文章を書く。 * 「は」「を」「へ」の使い方や敬体の書き方を確認する。 * 原稿用紙の基本的な書き方を指導する。		
					7・8	5. 読み返し、交流する。 (1)書いた文を自分で読み返し、まちがいを直す。句読点や文字のまちがいに注意する。 (2)書き終わった人どうして読み合って、よかったところを伝える。 * まちがいがいいか、自分で音読して確かめる。見直す観点を示すようにする。 観点の例： ・伝えたいことが書いてあるか ・句読点は正しく書けているか ・「です」「ます」が書けているかなど		
9	6. 読んだ作品のよいところを伝え合い、自分の作品のよさに気づく。 * お互いに読み合って感想を伝える。(よいところを見つけたら「シール」を貼ってもよい。)							
1学期	7月	2 (書く1)	は、を、へ 教科書:P72 △助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 ☆学習用語:文	言語	10・11	7. P72・73の提示文を読んで、助詞の「は」「を」「へ」の読み方と書き方を身につける。 (1)「は」「を」「へ」の例示された文を音読し、ノートに視写する。 (2)P72のありさんの詩を音読し、「は」「を」「へ」の読み方を理解する。 * 助詞の「は」「を」「へ」については、P33、P37、P51で扱ってきている。最後のまとめの学習として位置づけている。 * 「ワ」「オ」「エ」と読む文字を例文から見つけさせ、助詞については色つきの文字や色紙で区別して示すようにする。 * 視写した語や文を音読して、正しく書けているかを確かめさせる。 8. 助詞の「は」「を」「へ」を使って文を作る。 (1)全体で話し合って例をあげ、書き方を確認する。 (2)各自、ノートに文を書く。 * 助詞「は」「を」「へ」は、身につくまで機会を見て繰り返し指導することが大切である。 * 挿絵をもとに考えさせる。各自で文を作る前に教師は児童の意見を吸い上げて、1、2例板書する。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文を書こうとしている。	
1学期	7月	2	としょかんへ いこう 教科書:P74 △図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。	読書	1	1. 図書館のはたらきや利用の仕方について知る。 (1)図書館の利用経験を発表する。 (2)実際に学校図書館へ行って本を読んだり、借りたりする。 * 地域の図書館や学校図書館に行った経験を話し合い、図書館への興味を高める。 * 図書館での約束や貸し出しのルールを知らせる。 * 図書館で本を借りることを習慣づけたい。 * 本を選べない児童には、興味のわきそうな本を教師が薦めるようにする。	【知識・技能】 ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。	
					2	2. 読んだ本の中から気に入った本を一冊選び、紹介し合う。 * 本を一冊読み聞かせ、出てきた人物や本の題名、心に残った場面やできごとを話し合う。 * 紹介は、いちばん知らせたいページを見せながら題名や人物の名前、心に残ったところなどを話したり、好きな部分を読んだりするようにさせる。 * 全体の場でも数名に話をさせ、更に読みたい本を見つけられるようにする。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	7月	2	おはなしのくに 教科書:P75 △挿絵を見ながら昔話などに興味をもち、読書をする。 ☆学習用語:お話	読書	1	1. 挿絵からお話の世界にいざなう。 (1)P75～78を開き、なんの絵が描かれているのか話し合い、お話の世界であることを知る。 (2)挿絵を見ながら知っているお話について話し合い、読書への興味を高める。 ＊挿絵が昔話や童話の絵であることに気づかせる。知っているお話の題名やあらすじなどを発表させながら、読書傾向をつかんでおく。 ＊挿絵から読んでみたいお話を選ばせる。 ＊P75・76は日本の昔話、P77・78は外国のお話になっていることにふれる。	【知識・技能】 ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3ア) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3エ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1イ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2イ)
					2	2. 好きなお話を選んで読む。 (1)学校図書館に行って絵本を選び、読書する。 (2)多くの絵本を読み、その中からお気に入りの一冊を選ぶ。 3. お話の読み聞かせを聞く。 ＊たくさんの昔話を読み聞かせし、昔話の面白さ、独特の語り口調や言い回しに気づかせたい。ストーリーテリングをするのも効果的である。 ＊学校図書館で昔話が置いてある書架を知らせ、たくさんの昔話があることに気づかせ、もっと昔話を読みたいという意欲を高める。 ＊気に入ったお話を紹介し合い、更に読書意欲を高める。 ＊昔話は語り継がれてきたものであるため、細部が異なるものもあることを伝える。	
1学期	7月	6	おおきな かぶ 教科書:P82 □繰り返しの展開を楽しみながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 ☆学習用語:訳	読む	1	1. 物語を概観し、学習の見通しをもつ。 ・外国のお話 ・大きなかぶが出てくる ・みんなで引き抜こうとしている (1)題名や挿絵から物語の内容を想像し、興味をもつ。 (2)教師の範読を聞きながら、本文を読む。 (3)何が印象に残ったか、簡単な感想をもつ。 ＊音読が効果的な教材である。児童には、リズムよく音読しながら『おおきな かぶ』のお話の世界を十分に味わわせたい。 ＊かぶの大きさを思い浮かべさせる。 ＊挿絵を拡大して別に用意しておく、このあとの学習で人物の行動や出てくる順番を話し合うのによい。 ＊教師の範読を大切に、児童の音読につなげていきたい。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気付けて音読している。(1ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1イ) ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2イ) 【態度】 ・進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
					2～5	2. それぞれの場面を読んで、人物の行動を中心に想像を広げ、お話の展開を楽しむ。 ・おじいさんのかぶに対する願い ・かぶを引っ張る強さ ・どんな言葉で助けを呼んだか ・抜けなかった時に、登場人物がそれぞれなんと叫んだか ＊叙述の特徴や繰り返しの表現に注意することにより、かぶを引っ張る力がだんだん大きくなっていくことをつかませる。 ＊登場人物がかぶを引っ張る様子や、抜けずにどんなことを話し合ったか想像し、簡単に劇化すると、より楽しい活動になる。 ＊「それでも」「まだ まだ」「まだ まだ、まだ まだ」などの言葉に着目させる。	
					6	3. 最後の場面をもとに、物語全体について感想をもつ。 ＊「やっと、かぶは ぬけました」の時の登場人物の様子を想像する。 ＊物語全体を通して、心に残ったことやおもしろかったことを感想に書く。	
1学期	7月	4 (書く4)	えにっきを かこう 教科書:P92 ■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。 ☆学習用語:絵日記／思い出す	書く	1	1. 学習のねらいと流れをつかむ。 (1)挿絵を参考にしながら書くことを考え、隣どうして話し合う。 ・日曜日にしたこと ・楽しかったこと ・がんばったこと など (2)話したことをもとに、文章にすることを全体で確かめる。 ＊できごとを思い出しやすいように、隣どうして会話して、書くことを考えるようにする。 ＊書くことが焦点化できた組みを指名し、どんなことが話題になったか発表させる。板書を整理しながら、話し合った話題が書くことにつながることを示す。 ＊教科書の絵日記を見て、どのようなものを書くのかイメージをもつ。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1ア) ○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B1イ) 【言語活動例】 ・日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。(B2イ) 【態度】 ・積極的に経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、今までの学習を生かして絵日記を書こうとしている。
					2・3	2. 自分の書きたいことを選び、絵日記に書く。 (1)したことのほか、思ったことも入れるとよいことを知る。 (2)前時で話し合ったことを思い出して、題材を決めて絵と文章を書く。 ＊児童が体験したことの中から、絵日記にして友達に伝えたい事柄を選ぶようにさせる。	
					4	3. 書いた絵日記を読み合い、感想を伝え合う。 ＊グループ内で交換して読ませ、互いに読み合った足跡が見えるようにする。 ・付箋によいところを書いて知らせる ・「いいねシール」を貼る など ＊読み合ったあとは、クラス全員が読めるように、教室に掲示するなどの工夫をする。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
2学期	9月	5 (話す聞く5)	なつのおもいでを はなそう 教科書:P94 ◇相手の話の内容を受けて話したり、自分からすすんで話したりする。	話聞	1	1. P94・95の挿絵をもとに、学習の見通しをもつ。 (1)主な学習のねらいを知る。 ・夏休みのできごとを話題にすること ・実物を持ってきたり、絵や写真を持ったりして話すこと ・グループで話し合い、聞く人も質問や感想を言うこと (2)挿絵はどんなことを表しているのか話し合う。 (3)自分たちの夏休みのできごとを発表し合う。 ＊1学期(前期)の学習の、P52『みんなに はなそう』で行った、身近なできごとを話題にしたグループでの発表を想起させる。 ＊P94の挿絵を見て、それぞれどんなできごとなのか話し合う。 ＊自分の夏休みのできごとを自由に発表する。全体で何人かが発表したら、隣どうして自分の話をしたり、相手の話を聞いたりする。	【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A1)ア ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A1)エ 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア	
					2・3	2. 発表の準備をする。 (1)P95の挿絵をもとに、どんな発表をするのか話し合う。 (2)発表原稿を書く。 (3)発表に必要なものを用意する。 ・思い出の品 ・写真、絵 など (4)発表の練習をする。 ＊P95の発表例や質問・感想を読んで、具体的なイメージをもたせる。 ＊三文程度の発表原稿を書く。発表原稿は話の内容をまとめるためのもので発表の時は見ないようにさせる。 ＊発表原稿が書けたら、読み返して完成させる。完成したら発表の練習をして、友達や教師に聞いてもらうようにする。		【態度】 ・積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。
					4・5	3. 「夏の思い出発表会」をする。 (1)話すとき、聞くときのきまりを確認する。 (2)グループ全員が話したら、他のグループと入れ替わって、話をする。 (3)質問や感想を言う。 ＊話すときの約束、聞くときの約束を確認する。 ＊質問や感想を考えながら話を聞くことや、最後まで聞くことを指導する。 ＊夏休み前に家庭に協力を頼んで、思い出の品や写真を用意してもらう。		
2学期	9月	2	かたかなの ことば 教科書:P96 △身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 ☆学習用語:片仮名／言葉	言語	6	4. 片仮名で書く言葉を見つけ、簡単な片仮名を読んだり書いたりする。 (1)P96の挿絵から片仮名で書く言葉を見つけて発表する。 (2)P96下段の例示を読み、書き順や形に気をつけてなぞったり、ノートに練習したりする。 ＊挿絵から探した片仮名の言葉を発表させる。 ＊P96のます目に書いてある片仮名を読み、片仮名の言葉と絵を対応させる。 ＊新出片仮名の書き順や、形の特徴などを理解させ、丁寧にノートに書かせる。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ 【態度】 ・積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。	
					7	5. 片仮名の文字や言葉を読んだり、書いたりして、練習する。 (1)P97に示された語句を、声に出して読んだりなぞったりする。 (2)ノートに、書き順や形に気をつけて練習する。 ＊P97の提示されている言葉を音読し、平仮名と片仮名の長音・促音・拗音の表記の違いに気づかせる。 ＊筆順を示す数字や点画の方向を示す矢印に注意して練習させる。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	8	たのしく こえに だして よもう けんかした 山 教科書:P98 □場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 ☆学習用語:文／漢字	読む	1	1. 題名や挿絵をもとに、学習のねらいをつかむ。 (1)山の様子や言葉から、場面を想像して、お話を楽しむ。 (2)挿絵を見ながら教師の範読を聞き、あらすじをつかんだり、簡単な感想をもったりする。 ＊題名や挿絵をもとに物語の大体の流れをつかみ、読みのめあてをもたせる。 ＊教師の範読を大切に。特に一年生は耳から聞くことで、音読が上達する。 ＊初めに簡単な感想をもたせることで読みの実態が把握でき、次の展開に生かせる。 ＊新出漢字の読み方や筆順をおさえておく。	【知識・技能】 ○第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1)イ ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しようとしている。
					2～5	2. 山のしたことをもとに場面の様子を想像する。 ・いつもけんかをしている二つの山 ・どっと火を噴き出す山 ・雨でしょんぼり顔を見合わせる山 ・何年も何年も経ち、緑につつまれる山 ＊十分に音読をさせる。 ＊山がけんかをしたわけについて考える。 ＊「しょんぼり」顔を見合わせた時の山の気持ちを想像する。「しょんぼり」の意味やなぜ顔を見合わせたのかを考えさせる。動作化や劇化が効果的である。	
					6	3. 物語でいちばんよいと思ったところ(心に残ったところ)を見つけ、なぜそこがよいと思ったのか考えて、発表したりノートに書いたりする。 ・お話をもう一度読んで、すっかり線につつまれた山に、言ってあげたいことを考えて書く。 ＊ワークシートに気に入った場面の絵と言葉を書き写す。なぜ、そこが気に入ったかを言えることが大事である。 ＊お話全体を振り返って感想を書かせたり、登場人物に手紙を書かせたりする。	
					7	4. 音読発表会の準備をする。 (1)どんな会にするか、誰を招待するか話し合う。 (2)登場人物を確認し、グループで役割を決めて音読の練習をする。 ＊児童それぞれが、「聞いている人が楽しくなるように読む」などのめあてを決め、意欲を高める。 ＊保護者や地域のかたを招待するなど、教師は前もって準備を進めておく。 ＊今までの学習が生きる音読になるように、教師もグループを回って助言したり、上手なところを褒めたりする。	
					8	5. 音読発表会をする。 (1)発表会のときに気をつけることを確認する。 ・発表者として ・聞き手として ・招待したかたがたに対して (2)発表会をする。 ＊音読発表の前に、「みんなに聞こえるように読む」「様子が分かるように読む」など、どんなところを工夫して読むかを発表させる。 ＊発表のよいところを見つけ、感想を伝えさせる。 ＊発表会の最後に、聞き手・招待者に感想を聞き、発表の達成感を感じさせたい。	
2学期	9月	3 (書く1)	かん字の はじまり 教科書:P105 △漢字には、絵からできたものとしからできたものがあることを理解する。 ☆学習用語:漢字	言語	9～11	6. 漢字の成り立ちに関心をもち、「山」「月」「木」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。 ＊『けんかした 山』の「山」「日」「月」「木」の読み方を確認する。 ＊それぞれの漢字を絵、絵文字、文字と結びつけさせ、絵からできた漢字であることを理解させる。 ＊P105の文章を読み、「山」「月」「木」の書き方を練習させる。 7. 「上」「下」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。 ＊「上」と「下」の絵文字を比べ、違いについて話し合わせる。 ＊「上」と「下」の書き順を練習し、正しく書いたり、漢字を使った文を書かせたりする。 ＊「上」「下」は印からできた漢字(指事文字)であることを理解させる。 8. P107の上段に示された漢字が、どの絵と対応するか確かめ、漢字の由来を理解する。 ＊六つの漢字の書き順を確認し、ノートなどに正しく書かせる。 ＊絵文字を見て、それぞれどのようにしてできた漢字か、言葉で説明させる。 ＊新出漢字を使ってできる文や文章を、読ませたり書かせたりする。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	7	よんで たしかめよう だれが、たべたのでしょう 教科書:P108 □問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 ☆学習用語:だれが／なにを／どんな	読む	1	1. 題名を読んで、「誰が」「何を」食べたのかを考えるなどして、学習への意欲をもつ。 * 「誰が」「何を」食べたのかに着目させながら、問いと答えの文や写真との対応に注意して読むよう意識づけ、意欲を高める。 2. 題名と9枚の写真を手がかりに、この文章が説明していることの大体をつかむ。 * 題名から、「誰が」を明らかにすることが、この文章の中心であることに気づかせる。 * 9枚の写真が、木の葉や実と動物で構成されていることに気づかせる。 * 野山で暮らす動物の食べ跡についての興味を高め、この文章を学習していく意欲を高める。 * 音読をとおして、意味のまとまりを理解させる。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C1)ア) ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ) 【言語活動例】 ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C2)ア) 【態度】 ・積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。
					2～4	3. 問いと答えの文や写真との対応に気をつけながら、食べ跡と食べた動物やその食べ方を読む。 * P108～110を読み、次のことをおさえる。 ・写真中の、くるみの殻と穴のあいたくるみの殻 ・誰が＝ねずみが ・食べ方＝殻に穴をあけて、中身を食べる(「あなの あいた もの」が落ちていくわけ) * P111・112を読み、次のことをおさえる。 ・写真中の、松ぼっくりとまわりだけががらになった松ぼっくり ・誰が＝りすが ・食べ方＝まわりだけを食べて、芯を残す(「まわりだけが、がらになったもの」が落ちていくわけ) * P113・114を読み、次のことをおさえる。 ・写真中の、木の葉の食べられた部分 ・ねずみやりすの場合から予想して、これも誰かの食べ跡だと考えられること→誰が＝むささびが ・食べ方＝木の葉をかみ切って食べる。真ん中だけを食べてもいる(「ちぎれた木のは」が落ちていくわけ)	
					5	4. 写真の食べ跡の特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしについて話し合う。 * P115を読み、くるみ・松ぼっくり・木の葉の場合と比べて考え、写真の食べ跡の特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしに対する興味を高めるようにする。	
					6・7	5. 動物について知っていることや絵本・図鑑などで調べたことを、問いと答えからなる簡単な文章で書き、紹介し合う。 * 巻末付録『1年生で よみたい 本 ①』の中の『だれだかわかるかい？ むしのかお』『どうぶつのあしがたずかん』を用いてもよい。 * 簡単な絵も添えてカードを作り、カードの表に問い、裏に答えのように構成して、問いと答えの対応を意識させるとよい。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	12 (書く12)	たのしかった ことを かこう 教科書:P116 ■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 ☆学習用語:思い出す／漢字／したこと／伝える／「 」／言葉	書く	1	1. 学習の見通しをもつ。 (1)P116・117の挿絵や本文から、心に残ったできごとを思い出し、文章を書くことを知る。 (2)学校や家でのできごとで、楽しかったことやがんばったことなどを発表する。 (3)P117の「ここが だいじ」を読んで、文を書くのに、どんなことを思い出したらよいか気づく。 ＊ P116の挿絵を見て、何をしているところか話し合い、自分の経験を想起させるきっかけにする。 ＊ 自分の楽しかったことやがんばったことを全体で話し合ったり、隣どうしで質問し合ったりする。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
					2	2. 文の書き方を知る。 (1)P117の「ここが だいじ」を確認する。 (2)文を書いたら、友達と読み合うことを知る。 ＊「ここが だいじ」に示された内容を掲示し、書くときに参考になるようにしておく。 ＊ 児童が気づいたり、見つけたりしたことを板書し、文章を書くときに生かせるようにする。	【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)
					3	(3)P118・119の例を読み、どんな文を書くのかイメージをもつ。 (4)「 」の使い方や題名、名前の書き方などを確認する。 (5)「ここが だいじ」が例示の文章にどう生かされているか、確認する。 ＊ 題名、名前、「 」の書き方を掲示しておき、常に確かめられるようにする。 ＊ 例示された文章を読んで、したこと、見たこと、話したことや聞いたこと、思ったことのどれかが入っていることに気づかせる。	【態度】 ・進んで経験したことから書くことを見つけ、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
					4	3. 文章を書く。(話題設定・構成) (1)文章に書く内容を決める。 (2)書く題材が決まったら、書きたいことを思い出してメモやカードなどに書く。 ＊ これまでの学習を振り返って、書きたい事柄やできごとについて隣どうしで紹介し合い、題材を決める。 ＊ 書きたい事柄を、一文ずつメモやカードに書くよう指導する。	
					5～10	4. 文章を書く。(記述・推敲) (1)メモやカードを並べて、書く順番を決める。 (2)原稿用紙の書き方を知る。 ・題名 ・名前 ・書き始めの一字下げ ・会話の「 」 ・読点の打ち方 など (3)メモをもとに文章を書く。 ＊ 分量のめやすは、本文だけで100字、3文程度とする。会話は難しいが、入れることができるとよい。 (4)書いたら読み返す。まちがいがあれば直す。 ＊ メモやカードを順番に並べたり、整理したり、つけたしたりして書く準備をする。 ＊ 書き始めは一まずあけることや、「 」の書き方を、例示の文章をもとに確認する。 ＊ なかなか書けない児童には、個別に支援を行う。 ＊ 書き終わったら、必ず読み返し、推敲する習慣をつけることが大切である。	
					11～13	5. 書いた文章を交流する。 (1)書いた文章を発表する。 (2)友達のよいところを見つけて伝え合う。 ＊ よいところを見つめる観点を確認する。 ＊ シールやひと言感想を書いた付箋を貼る。 ＊ 友達の文章についてよいところを伝え合い、互いに自分のよさに気づくようにする。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	5	かぞえよう かぞえた 教科書:P120 △数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにするとともに、一から十までの漢数字を正しく読み、書く。	言語	1	1. 言葉の意味を考えながら、リズムよく音読する。 ＊挿絵を指さしながら、ものと数を確かめさせる。 ＊全員で、一行ずつ、交互に、グループでなどさまざまな形態で音読を楽しめるようにする。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ 【態度】 ・進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。
					2	2. 絵と言葉をもとに、数え方を確認する。 ＊教科書の挿絵で絵カードを作成し、「…りん」「…かい」などの数え方を言えるようにさせる。 ＊「一つ」「二つ」や「ーりん」「二かい」などを横に読み、正しく覚えられるようにする。	
					3	3. 数を表す漢字を声に出して読んだり書いたりすることを知る。新出漢数字を書き順に気をつけて正しく書く。 ＊漢字カードを作成し、読み方や書き順、字形がよくわかるようにしておく。 ＊「かぞえた」の読み方と、漢数字の読み方との違いを確認する。	
					4	4. P122・123を見て、一から十までの漢数字を声に出して読む。挿絵を見ながら、助数詞をつけて漢数字を声に出して読む。 ＊漢数字の数え方を声に出して練習したり、数を変えると助数詞の言い方が変わったりすることに気づかせる。	
					5	5. 漢数字を使って短い文をつくり、ノートに書いて発表し合う。 ＊漢字の書き順を空書きさせ、正しく書けているか確認する。 ＊身のまわりのもので、助数詞を使った短文を作らせる。 ・おにぎりを一こ食べた。 ・ひまわりの種を五つぶらった。 ・猫を三びき、犬を一びき飼っている。 ＊作った短文を交換して読み合い、漢数字の読み書きや助数詞の使い分けの練習をさせる。	
2学期	10月	2	たのしく こえに だして よもう あめの うた 教科書:P6 □定型から生まれるリズムや響き、オノマトペからのイメージの広がりをおして詩を楽しむ。 ☆学習用語:想像	読む	1・2	1. 雨(の音)について交流し合う。 ＊雨が降ってきた時の経験を想起して、どんな音がしたかを思い出して「シャーシャー」などの擬音語で表現する。 2. 一人読み、ペア読み(一行ずつ交代して読む)、一斉読みなどをして、音読を繰り返す。 3. 二連の、雨が当たった物と、そこから響いてくる音のイメージを話し合う。 ＊音読を繰り返し、音読を楽しむ。ペアやグループ、全体など組み合わせを工夫する。 4. 自分だったら、どんな音をイメージするか発表し合う。 ＊言葉の楽しさとともに、どんな様子かを思い浮かべながら音読させる。 5. オノマトペの部分や当たる対象(「やね」「つち」「かわ」「はな)を換えて、自分たちの「あめの うた」の詩を作り、発表し合う。 ＊「ペランダ」「ものおき」「みち」など、児童の生活実態に合わせた対象に換えてよいことを知らせる。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・進んで言葉の響きなどに気をつけて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
2学期	10月	6 (書く6)	つたえたい ことを よく 見て、かこう しらせたいな、いきものの ひみつ 教科書:P8 ■生き物とふれ合ったことや見聞きしたことを思い出し、伝えたいことを明確にして書く。 ☆学習用語:伝える／メモ／様子／思ったこと	書く	1	1. 身のまわりの生き物について書いて友達に知らせるという学習活動を見通す。 ＊学校で飼育している動物や身近にいる生き物などを話題にし、興味関心を喚起する。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・進んで生き物とふれ合ったことや見聞きしたことを「いきもののひみつ」として決め、学習の見通しをもって友達に伝えようとしている。
					2	2. 生き物とふれ合ったことや見聞きしたことから、伝えたい生き物を決める。	
					3	3. よく思い出して、メモに書く。	
					4・5	4. メモに書いたことから、伝えたいことを選び、書く。	
					6	5. 友達と読み合う。 6. 生き物の秘密を伝えるためにどんなところに気がつけたか、めあてにそって振り返る。	

学期	月	時数	単元名/教材名/教科書ページ	領域	時	学習活動/*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	6	<p>一 だいじな ことばを えらんで よみ、せつめいしよう はたらく じどう車 教科書:P12</p> <p>□「やくわり」と「つくり」に気をつけて、はたらく自動車について説明した文章を読む。</p> <p>★ここがだいじ:なにについて かいてあるか、かんがえる</p> <p>☆学習用語:だいじなことば/やくわりの文/つくりの文</p>	読む	1	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 単元扉を読み、「だいじなことば」とは、どんな言葉をさすのかを考えたり、説明をする方法について確認したりして、学習の見通しをもつ。</p> <p>(1)「だれが、たべたのでしょう」に書かれていた「だいじなことば」にはどんな言葉があったかを想起し、「はたらくじどう車」にも大事な言葉があることを確認する。</p> <p>(2)「だいじなことば」は、繰り返し出てくる言葉を見つけることがヒントになることを確認する。</p> <p>(3)教師の範読を聞き、どんな言葉が「だいじなことば」になるか、文中から選ぶ。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C1)ア)</p> <p>◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C2)ア)</p>
					2	<p><たしかめよう></p> <p>2. 『はたらく じどう車』には、どんな自動車が出てきたのかを確認する。</p> <p>(1)書かれた順序にそって、『はたらく じどう車』の名前を確認する。</p> <p>*挿絵を提示し、視覚的に確認しやすくするとよいだろう。</p> <p>*バスやコンクリートミキサー車、ショベルカー、ポンプ車について知っていることや、もっと知りたいことを発表させると、より興味が高まる。</p> <p>(2)本文の中に繰り返し出てくる言葉には、どのようなものがあったかを確認する。</p> <p>*「ですから」という言葉だけでなく、「はこぶ」という言葉や「じどう車で」という、語にも着目できるといいだろう。</p>	
					3・4	<p><くわしくよう></p> <p>3. 一つ一つの自動車について、「やくわり」と「つくり」を表にまとめる。</p> <p>(1)それぞれの自動車にどのような「やくわり」と「つくり」があるのか、考えて選び出す。</p> <p>(2)本文に出てくる自動車の「やくわり」と「つくり」のつながりを説明する。</p> <p>*「やくわり」とつながりのない「つくり」もあることを確認するとよい。例えば、バスが人を運ぶ「やくわり」があることと、車体の色が白である「つくり」は、つながりがないことなど。</p> <p>(3)バス・コンクリートミキサー車・ショベルカー・ポンプ車の乗り物の説明の仕方、似ているところを考える。</p> <p>*「ですから」という言葉が繰り返しでてきたことで、「つくり」がわかりやすくなっていることを友達同士で説明する。</p>	
					5	<p><まとめよう></p> <p>4. もっと知りたいと思ったことを考える。</p> <p>(1)本文に登場する自動車や、その他の「はたらく じどう車」について、もっと知りたいと思ったことを書き出す。</p>	
					6	<p><つたえあおう></p> <p>5. もっと知りたいと思ったことを友達に話したり、書いたことを読み合ったりする。</p> <p>(1)もっと知りたいと思ったことをペアで伝え合う。</p> <p>(2)伝え合って参考になったことや、新たに自分も知りたいと思えたことを書き足す。</p> <p><ふりかえろう></p> <p>6. 「ふりかえろう」を参考に、学習全体を振り返る。</p> <p>(1)上手に説明する「こつ」について、友達どうしで確かめる。</p> <p>(2)「やくわり」と「つくり」が対応するか、気をつけたいことを交流する中で確かめる。</p>	
					2学期	11月	
2~4	<p><くみたてよう>(重点)</p> <p>3. 「やくわり」「つくり」「できること」をメモに書く。</p> <p>*絵本や図鑑などの資料を読み、「やくわり」「つくり」「できること」を調べ、短い言葉でメモに書く。</p> <p>*必要に応じて、目次を利用して読むなどの調べ方について教える。</p> <p>*「ですから」を使って「やくわり」と「つくり」「できること」の関係をつなぐ。</p> <p>*友達と読み合ってメモに選んだ乗り物の「やくわり」「つくり」「できること」が書いてあるか確かめる。</p>						
5・6	<p><かこう></p> <p>4. メモをもとに「のりものカード」を書く。</p> <p>*P22の下端に書かれている例文を提示する。メモが「のりものカード」のどこにつながっているのかを理解させる。</p>						
7・8	<p><よみかえそう></p> <p>5. 「のりものカード」を声に出して読む。</p> <p>*句読点は正しく書けているか、字のまちがいがいかに確かめさせる。</p> <p>P158巻末付録『ぶんしょうを よみかえす とき』も参考にさせたい。</p>						
9	<p><つたえあおう></p> <p>6. 友達と読み合う。</p> <p>*友達の作品のよさを見つけて伝える。</p> <p>*意欲がもてるよう、友達の作品を読んだらサインをする、シールを貼るなど交流の跡が視覚的にわかるようにしてもよい。</p>						
10	<p><ふりかえろう></p> <p>7. どんなことに気をつけて「のりものカード」を書いたか、めあてにそって振り返る。</p>						

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	11月	5 (話す聞く5)	えを見てつたえよう なにをして いるのかな？ 教科書:P24 ◇絵を見てうさぎの言葉を考えて友達と話したり、友達と組になってお話を作って話したりする。 ☆学習用語:話し合う／お話／言葉	話聞	1	1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)P24・25の絵を見て、どのような学習をしたいか学習の見通しをもって学習計画を立てる。 ＊板書に挿絵の拡大した物を提示する。 (2)P24・25の絵を見て、うさぎが集まって、何を食べているのか、どんな話をしているのかを全体で話し合う。 ＊家族構成や何をしているのか、どんな物を食べているのか、予想できること、人物の性格など絵から読み取らせ、対話する。	【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A1)ア 【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A2)イ 【態度】 ・進んで身近なことや経験したことなどから話題を決め、学習課題にそって、うさぎの家族のつながりを考えたお話を少人数で話し合おうとしている。
					2	2. それぞれのうさぎの名前や家族のつながりを考えて様子を詳しく伝える。 (1)話題にしたいことを選んでカードに書く。 ＊カードに書くときは、大事なことをメモ形式で書く。 (2)カードに書いたことを全体で話す。 ＊絵と照らし合わせて話させるとよい。	
					3	3. 友達と組みになって、うさぎの家族のつながりを考えてお話を作る。 (1)2、3人で組みになり、それぞれのうさぎがどんなことをしているかについてカードに書く。 ＊カードには短い文で書かせるようにする。 (2)カードをもとに対話する。 ＊ペアの交流から、相手を変えていろいろな人と対話できるようにする。	
					4	4. 友達と作ったお話を全体で話す。 (1)2、3人で組みになって、作ったお話を話す。 ＊カードに書いていないことも、進んで話すようにできるとよい。 (2)作ったお話について感想を伝え合う。 ＊聞いたことを絵の中から探したり、絵の人物がこの後どうするかを考えて、伝え合えるとよい。	
					5	5. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊絵を見て、うさぎの言葉を考えて、友達とどんな話をしたかを振り返らせる。	
2学期	11月	2	かん字の ひろば① 日づけと よう日 教科書:P28 △日付と曜日を表す漢字を正しく読む。 ☆学習用語:一週間／一ヶ月／一年間	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊日付と曜日を表す言葉や漢字を使った書き方を知るという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 今日は何日かを確かめ、日付の読み方を考える。 ＊声に出して読んだり、ノートに書いたりして日付の読み方を理解できるようにする。 ＊上巻P122「かぞえよう」で学習した「ひとつ」「ふたつ」「みっつ」などの読み方と、日付の読み方を見比べ話し合う。 ＊日付を使って短い文を作り、発表し合う。 3. カレンダーから曜日の漢字を集め、読み方について話し合う。 ＊曜日を漢字で記載しているカレンダーをもとに、曜日の漢字を集め、読み方を理解できるようにする。 ＊日曜日から土曜日までのひとまとまりの七日間を「1週間」と呼ぶことを確認する。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ 【態度】 ・積極的に漢字を読み、学習課題に沿って音読しようとしている。
					2	4. カレンダーからそれぞれの月が何日まであるかを確かめる。 ＊11月と12月が何日まであるか確かめ、話し合う。 ＊「1年間」を12に分けた、その一つ一つを「1か月」と呼ぶことを確認する。 ＊カレンダーをもとに、「大の月」「小の月」を確かめる。 5. 日付と曜日の読み方に慣れる。 ＊自分や友達の今年の誕生日が何月何日何曜日かを確かめ、ノートにまとめる。 ＊学校行事・年中行事などに関係する月日を集め、短い文を作り、発表し合う。 ＊1月1日から12月31日まで、あるいはある期日からの12か月間を「1年間」と呼ぶことを確認する。 6. 学習を振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	11月	10 (書く4)	二 だれが なにを したかを たしかめよう うみへの ながい たび 教科書:P32 □白くまの様子を考えながら声に出して読み、 写真と文から、誰が何をしたかを確かめる。 ★ここが大事:だれが なにを したかを かん がえる ☆学習用語:できごと、順序、時	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元とびらを読み、単元の見通しをもたせる。 ＊単元とびらを読み、写真と文から誰が何をしたかを確かめながら、『うみへの ながい たび』を読むことを確認する。 ＊単元とびらの題名、文字、写真を見て、お話を想像させる。	【知識・技能】 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1ク) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C1イ) ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2イ) 【態度】 ・学習課題にそって、本文の言葉をもとに登場人物の行動を具体的に想像し、進んで発表しようとしている。
					2・3	<たしかめよう> 2. 「ながいたび」は、どのような旅なのか考えながら読む。 (1)誰が出てくるかを確認する。 (2)3枚の写真を見て、だれが何をしているのかを考える。 ＊教師の範読を聞いたり、それぞれが音読の練習をしたりして、教材文に読み慣れる。 ＊3つの写真から、お話は大きく3つに分けることができることを確認する。 ＊難語句や、漢字の学習をさせる。	
					4	<くわしくよう> 3. P35の写真とP45の写真を比べて違いを見つける。 ＊お話には、はじめとおわりで何かが変わることを確認する。 ＊「とき」をあらわす言葉に気を付けて読みながら、できごとの「じゅんじょ」を確認する。	
					5・6	<まとめよう> 4. <たしかめよう>(2)の3枚の写真から、好きな1枚を選んで、その理由とともに発表する。 ＊3枚の写真の特徴(はじめ・なか・おわり)を本文の言葉を使って発表できるようにする。	
					7～9	<つたえあおう> 5. 7枚の写真から好きな1枚を選び、登場人物になったつもりで言葉を考える。 ＊7枚の写真は7つの場面と対応しているので、場面に合った言葉になるよう、本文の言葉をもとに考えさせる。 ＊場面ごとの母さんぐま、子ぐまの様子を具体的に想像させる。 ＊どんな話し言葉にすればよいかも考えさせる。 ＊動作化したり、写真にふきだして言葉を書いたりして、母さんぐまや子ぐまの思いを想像させる。	
				10	<ふりかえろう> 6. この単元で学んだことを振り返る。 (1)誰が何を言ったかを考えるのにどのようなことを気をつけたかを振り返る。 ＊「」と()のちがいについて考えさせる。 (2)白くまの親子の言葉を考える時に大切にしたこと考える。 ＊お話を読むときには、誰が何をしているか、できごとがどのような順序で起きているかを考えることが大切だと確認する。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	12月	6 (書く6)	三しゃしんをよく見て、そうぞうしよう きこえてきたよ、こんなことば 教科書:P50 ■写真をもとに、できごとを想像したりふきだし の中の言葉を考えたりして、お話を書く。 ★ここが だいじ:おはなしを かんがえる ☆学習用語:想像する／お話を考える／「いつ」 ／「どこで」／「だれが」／「なにを」／吹き出し	書く	1	<見通しをもとう> 1. 写真をもとにお話を考えて書く学習活動について知り、見通しをもつ。 <きめよう・あつめよう>(重点) 2. じっくりと写真を見て、気づいたことを出し合ったり、想像したことを話したりする。 * 写真に写っている事物から想像させたり、事物についての既知知識や経験から想像させたりして、豊かに発想させたい。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・進んで想像したことから書くことを見つけ、今までの学習を生かして簡単なお話を書き、友達に伝えようとしている。
					2・3	<くみ立てよう> 3. 写真を見て、心に浮かんだ言葉や想像した言葉をふきだしに書く。 * 呼びかけてみて心の中に聞こえてきた言葉を書いてみる、発想できた児童の言葉を共有するなど、楽しみながら広げたい。 * 想像することが難しい場合には、パペットやペープサートなどを利用してごっこ遊びなどさせて、会話から発想させて書かせるなどの工夫もできる。 4. ふきだしの言葉をもとに前後を想像し、お話を考える。 * 吹き出しの前後を考えることで自然と「始め・中・終わり」の構成に落ち着いていくのではないかと考えられるが、あえて低学年児童に意識させる必要はないと思われる。	
					4・5	<かこう> 5. 考えたお話を書く。 * ふきだしの言葉は、必ず文章に取り入れ、かぎ(「」)の表記や「……と言いました。」との対応を理解させるようにする。 * 「始め」「終わり」の部分は簡略化させ、「中」の部分に重点をおいて楽しく書けるようにしたい。 * 「始め」の部分には、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」を簡単に書かせると書き出しやすい。 * 「終わり」の部分を書くのが難しい児童には、例文を幾つか用意しておき、適宜選ばせるなどする。 <よみかえそう> 6. 声に出して読み返す。 * 自分一人で、友達に聞いてもらうなど何回か読み返せるように工夫したい。	
		6	<つたえあおう> 7. 友達と読み合う。 * よく書けているところやおもしろいところなどを伝え合うようにする。 * 一言感想を付箋紙に書いて貼れるようにしたり、保護者から感想をもらったたりするなどの工夫も考えらえる。 * ふきだしの言葉の有無を比べるなどして、会話を入れる効果(話がいきいきと伝わってくるなど)にも気づかせることができる。 <ふりかえろう> 8. 写真からお話を考えるときにどんな工夫をしたか、めあてにそって、振り返る。				
2学期	12月	3	ことばの ぶんか① 天に のぼった おけやさん 教科書:P54 △古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、おもしろかったところを友達に伝える。	文化	1	1. 昔話について、簡単に知る。 * 昔から語り継がれてきたお話を昔話ということ、人々に親しまれてきたからこそ伝えられているのだということを知らせる。 2. 絵を見て、順序を考えながら、教師の音読を聞く。 * P55の挿絵を手がかりにしながら、どんな話なのか、話の展開を予想させる。 * 教師は、付録(P142～145)の文章を児童に向かって読む。児童には、挿絵を指で押さえたりするなどさせながら、難語句などは、絵と照応させるなど、児童にわかりやすいように話をする。ただし、詳細に説明する必要はない。お話の概要がつかめる程度でよい。 3. 絵を手がかりにお話の順序を確かめる。 * 挿絵を手がかりにしながら、話の順序を確認させる。	【知識・技能】 ◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、学習の見通しをもっておもしろかったところを発表しようとしている。
					2・3	4. おもしろかったところを発表する。 5. 学習を振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
2学期	12月	2	ことばの ひろば① かたかな 教科書:P56 △片仮名の書き方や使い方に慣れ、正しく使う。 ☆学習用語:片仮名／言葉／漢字／小さく／書く片仮名／伸ばす音	言語	1	1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 *教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. P56を参考に、片仮名で書く言葉を発表したり、自分でも仲間ごとに言葉を集め、ノートに書いたりする。 *教材の例文のように、身近な言葉の中に片仮名で書くものがあることに気づかせる。また、ほかにもどのようなものがあるか自分たちであげさせることにより、片仮名をより身近に感じて学習することができるようにする。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ 【態度】 ・積極的に片仮名を読み、見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。	
					2	3. まちがえやすい字形の片仮名を、書き順や形に気をつけて書く練習をする。 *似た字形の片仮名を正しく書き分けることが重要である。まちがえずに書くために、書き順や字形やはらいの方向などを、教師が確認しながら児童に覚えさせるように指導することを心がけたい。 4. 片仮名の濁音と半濁音、促音、拗音や長音の言葉を読んだり書いたりする。 *片仮名の濁音と半濁音、長音や拗音の読み方や書き方を教師が示しながら指導をする。 *文字を書かせる際に、拗音(「チャ・チュ・チョ」など)は特に、発音させながら書かせることが効果的である。読み方と書き方が一致するように指導することを心がけたい。 *書かせる際には、まず目を上手に利用し、片仮名の形や拗音・長音を書く位置などにも気をつけさせる。 5. 学習したことを振り返る。		
2学期	12月	2	かん字の ひろば② かん字の よみかた 教科書:P58 △漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 ☆学習用語:漢字	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 *漢字には、読み方が一つだけではないものがあることを理解する学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「山のぼりをする」「ふじ山を見る」を声に出して読み、「山」の読み方の違いを考える。 *「山」のように、他の言葉や漢字とのつながりで読み方が変わることがあることに気づくことができるようにする。 3. 「日」を含む文を声に出して読み、「日」の読み方の違いを考える。 *「お日さま」「三月三日」「日曜日」「本日」など「日」に、いろいろな読み方があることに気づくことができるようにする。 4. 「山」「日」を使った言葉を集め、それぞれにどんな読み方があるかを確かめ、話し合う。 *集めた言葉を使って短い文を作り、発表し合うようにする。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態度】 ・進んで漢字を読み、今までの学習を生かして、使い方によって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。	
					2	5. P59の設問を考え、それぞれの漢字の読み方を確かめる。 *「竹」「糸」「左」「人」「生」を含む文を声に出して読み、それぞれの読み方を確かめる。 6. 既習漢字から読み方が一つだけではないものを探し、それぞれにどんな読み方があるかを確かめ、話し合う。 *他の言葉や漢字とのつながりで漢字の読み方が、変わる例を探し出し、短い文を作り、発表し合うようにする。 *P175「一上で 学んだ かん字」、P166「あたらしく学んだかん字」を参考にするとよい。 7. 学習したことを振り返る。		
2学期	12月	4 (書く4)	気もちを かいて、よみかえそう ころが あたたくなる 手がい 教科書:P60 ■相手を決めて、気持ちが伝わるように手紙を書く。 ☆学習用語:手紙／相手／気持ち／読み返す	書く	1	1. 手紙を書くという学習活動について知り、見通しをもつ。 *手紙にふれる機会がほとんどない児童もいることも想定し、実物や例示できる手紙を見せたり、もらって嬉しかった経験を話したりしてイメージできるように工夫したい。手紙の出る絵本なども活用し、手紙の特性やもらったときのうれしさなどに気づかせることもできる。 *返信がもらえるように、相手に協力を呼びかけたり、保護者をお願いしたりするなどしておくとよい。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B)(1)エ 【言語活動例】 ・日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。(B)(2)イ	
					2	2. 相手に伝えたい気持ちをはっきりさせる。 *相手に伝えたい「気持ち」とそれに関係する「できごと」を組み合わせる書くように助言するとよい。		【態度】 ・進んで手紙のよさについて考え、学習課題にそって、相手を想定して思ったことや伝えたいことを書こうとしている。
					3	3. 手紙を書いて、読み返す。 *書き終わったら、まず自分で声に出して読んでみる。推敲するポイントのチェック表などを用意し、自分で気づかせるようにする。 例:宛名や自分の名前を正しく書いているか、句読点は正しく書けているか、字のまちがいがいがないかなど		
					4	4. 手紙を渡す。 *学級内で手紙を渡した場合は、返事を書かせるようにする。 5. 手紙のよさを考え、振り返る。 *手紙のよさの例:気持ちを伝えられる、手もとに残る、普段会えない人にも伝えられる、もらったときにうれしくなるなど。 *返事をもらえる場合は、その後に振り返ってもよい。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	12月	6	四 ようすを おもいかべながら よもう スイミー 教科書:P64 □どのようなお話か考えながら読み、おもしろ かったところを紹介する。 ★ここが大事: ようすを おもいかべる ☆学習用語: 様子／訳／はじめ／おわり／わけ ／なぜ	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読み、見通しをもつ。 ＊ 場面の様子を思い浮かべながら『スイミー』を読むことを確認する。 <たしかめよう> 2. 登場人物やお話の内容を確認する。 (1) お話に誰が出てきたのかを確認する。 (2) はじめとおわりでなにが変わっているのかを確認する。 ＊ 教師の範読を聞き、子どもたちの感想を聞く中で、登場人物やはじめと おわりの違いを確認するとともに出来事の順序を整理する。 ＊ 順序や場面については、「うみへのながいたび」の学習を振り返り、関連 づけて考えさせる。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3 エ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物 の行動を具体的に想像している。(C1)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感 想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ) 【態度】 ・進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に 想像し、学習課題にそって、お話の表現のよさや面白さに気 付き、発表しようとしている。
					2・3	<くわしくよもう> 3. 場面の様子から登場人物の行動の理由を考える。 (1) スイミーがすばらしいものやおもしろいものを見た時の様子を思い浮か べながらスイミーの言葉を考える。 (2) (1)の言葉の理由を考える。 ＊ 本文の言葉や身近なもの、自分の経験などをもとに想像させる。	
					4	<まとめよう> 4. スイミーはどうして変わったのか、場面の様子に着目しながら考える。 ＊ どうしたら小さな魚の兄弟たちを助けることができるか、どうしたらとも 悲しい思いをしないですむかを「うんと考えた」ことに着目させる。	
					5	<つたえあおう> 5. お話を読んで心に残ったところを伝え合う。 ＊ 出来事の順序や、スイミーの変化を共有したうえで、児童それぞれが心 に残った場面や言葉を選べるように振り返りをする。	
					6	<ふりかえろう> 6. この単元で学習したことを振り返る。 (1) 様子を思い浮かべて読むには、何が大切だったか振り返る。 ＊ 今までの物語も振り返りながら「誰が何をしたか」「はじめとおわりでなに が変わったか」「できごとの順序」などに気をつけて読むと登場人物の様子 や場面の変化がわかりやすいことを振り返らせる。 (2) 友達を紹介した場面のよさを考える。 ＊ 同じ場面を選んだ友達でも、さまざまな感情をもったり、感情を表すの に、さまざまな言葉で表現することができることに気づかせる。	
2学期	12月	4	どくしょの ひろば 「おはなしどうぶつえん」をつくろう 教科書:P82 ◇動物の出る本を読んで、友達に紹介す る。 ☆学習用語: 題名／作者／カード	読書	1～3	1. 「おはなしどうぶつえん」を作り、動物の出る本を紹介するという学 習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 (1) 動物の出る本を探して、読む。 2. 紹介カードを書き、動物ごとに貼り、「おはなしどうぶつえん」を作る。	【知識・技能】 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝え る働きがあることに気付いている。(1)ア) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3 エ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かった ことを共有している。(C1)カ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感 想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ) ・学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書 いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。(C2 ウ) 【態度】 ・「おはなしどうぶつえん」を作るという活動に見通しをもち、 動物の出る本を読んで読み、粘り強く紹介カード作り の活動に取り組んでいる。
					4	3. 「おはなしどうぶつえん」を開き、本の紹介をする。 (1) 好きな場面や心に残ったことを発表し合う。 (2) 紹介された本を読み、「おきゃくさまカード」を貼る。 4. 学習を振り返る。	
3学期	1月	1	しを よもう ゆき 教科書:P86 △言葉が生み出すイメージの広がりや、音読を とおして、詩を楽しむ。 ☆学習用語: 詩	読む	1	1. 雪について、知っていることを発表する。 ＊ 今までの雪との経験から、雪を見たり、雪遊びをしたりしたことなどを自 由に発表させる。 ＊ 雪が降った経験を多くもたない児童には、映画やTV、アニメーションなど のメディア経験をもとに想起してよいことを伝える。 2. 一人読み、ペア読み(一行ずつ交代して読む)、一斉読みなどをして、音 読を繰り返した後に、作品に対する感想を発表する。 ＊ 繰り返し音読して言葉のリズムをつかませる。 3. 連ごとにイメージを発表し合う。 ＊ 初雪から春への季節の変化を確かめる。気温の変化については、説明 してもよい。 ＊ 「どかゆき」「ねゆき」「べたゆき」「ぼたゆき」「ざらめゆき」という言葉がイ メージできない児童には、写真等を提示してイメージが想起できるようにす る。 4. 「ゆき」の様子を思い浮かべながら自由に音読し、発表し合う。 ＊ 「きゅっきゅ」「のしのし」「ずんずん」のオノマトペの部分をどのように音読 するか、状況が感じられるようにそれぞれに工夫させたい。 ＊ 「きゅっきゅ」などの言葉を音読する場合は、動作化を取り入れるとよい。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読してい る。(1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物 の行動を具体的に想像している。(C1)エ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感 想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ) 【態度】 ・進んで言葉の響きなどに気をつけて、学習の見通しをもっ て音読しようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	1月	14 (書く5)	五 した ことと むすびつけて よもう みぶりで つたえる 教科書:P90 □文章と絵の対応に気をつけながら読み、いろいろな身振りが表すことを説明する文章を書く。 ★ここがだいじ:じぶんの した ことと むすびつけて よむ ☆学習用語:みぶり／むすびつける／説明	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読み、「じぶんのしたこととむすびつけてよむ」とは、どんな読み方なのかを考えたり、説明する方法について確認したりして、学習の見通しをもつ。 (1)「みぶり」とは、体の動きであることを確認し、これまでしたことのある身振りを想起する。 (2)「じぶんのしたこととむすびつけてよむ」とは、本文に出てくる身振りを実際に行いながら読むことだ、と確認をする。 (3)教師の範読を聞き、本文に登場する身振りを実際に行ってみる。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ) ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア) 【態度】 ・積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題にそって考えたことを文章にまとめようとしている。
					2・3	<たしかめよう> 2. 『みぶりで つたえる』には、どんな身振りが出てきたのかを確認する。 (1)ペアで活動し、音読をする側と身振りをする側に分かれる。 ＊全文を通読してから役割を交代すると、児童が文全体への理解を深めることができるだろう。 (2)『みぶりで つたえる』で説明されている身振りがいくつあるのかを確認する。 ＊挿絵を提示し、視覚的に身振りの意味を確認しながら進めるとよい。 ＊身振りについて知っていることや、もっと知りたいことを発表させると、より興味が高まる。	
					4～6	<くわしくよもう> 3. 本文に出てきたみぶりについて一つ一つ正確に押さえる。 (1)文と挿絵を結びつけて、どの文がどの身振りについて説明しているのかを確認する。 (2)それぞれの絵が、どんなときにどんなことを伝えようとしているのかを調べる。	
					7・8	<まとめよう> 4. 日頃の生活の中での経験と本文を結びつける。 (1)挿絵を参考にし、普段の生活で、どのような身振りをどのようなときに使っているのかを想起し、確認する。 ＊本文に書かれていない身振りについては、どのような意志を伝えることができるのかを確認する。 ＊身振りを想起することが困難な児童への支援として、P101にある本を参考にするとよいだろう。 (2)自分が身振りを使ったことで、どんな良いことがあったか、を書く。 ＊どんなことを書いたらいいのかわからない児童に対しては、わかりやすく伝えられたり、遠くの人にも伝えることができたりしたことを書くといい、など具体的に児童に例示するとよいだろう。	
					9	<つたえあおう> 5. 前時に書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 (1)ペアで読み合いを行い、感想を伝える場をもつ。 ＊ペアを作って読み合いをし、さまざまな相手と交流をすることで、友達の考えのおもしろさに気づくことができるだろう。 <ふりかえろう> 6. 学習全体を振り返る。 (1)読み合いをした結果、どんなよさに気づくことができたのかを考える。 ＊読み合いをした結果、自分とは違った事柄について書いた児童の内容を参考に、新たに考えたことを書くように指導するといいたいだろう。 ＊「みぶりでつたえることの「よさ」をかくときに、どのようなことに気がつきましたか。」という投げかけがわかりにくい場合は、「字の丁寧さ」や、詳しく書こうとしたか、など具体的に振り返る視点を伝えるといいたいだろう。	
3学期	1月	1	ことばの ひろば② 文をつくろう 教科書:P102 △主語と述語の関係に気をつけながら、いろいろな文を作る。 ☆学習用語:だれ(なに)が/どうした(どうしている)	言語	1	1. 冒頭の会話文を通して、文作りに関して主語と述語の対応が重要だということを知る。 ＊主語と述語を明示することで文意が明確になることを意識させる。 2. P102に描かれた事柄を、「だれ(なに)が/どうしています」の文型にあてはめながら文を作り、発表する。 ＊絵を見て何が描かれているか考えさせ、それを文型にあてはめて文にすることを意識させる。 ＊わかりやすく伝えるためには、「だれ(なに)が」「どうしている」を明確にすることが大切であることに気づかせる。 ＊うまく作れた児童の文を取り上げて、文型との対応や主語と述語の照応を確認したうえで、他の児童に発表させてもよい。 3. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態度】 ・進んで文の中における主語と述語との関係に気づこうとし、学習課題にそって簡単な文を作ろうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	1月	2	かん字の ひろば③ かわる よみかた 教科書:P104 △漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 ☆学習用語:読み方	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊使い方によって漢字の読み方が変わることがあることを理解する学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. P104上段の文を声に出して読み、「一台」と「一けん」の読み方を比べ違いを考える。 ＊車や機械などを数えるときには「台」、家の数を数えるときには「けん」と、数えるものによって、読み方が変わることを理解できるようにする。 3. 「一台」と「一けん」のように助数詞が変わると、「いち」が「いっ」と数詞の読み方が促音化するものがあることに気づくことができるようにする。 ＊P104下段の「一枚・一個」「六枚・六個」「十枚・十個」の語例をもとに、短い文を作り、声に出して読み、話し合う。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1エ) 【態度】 ・進んで漢字を読み、今までの学習を生かして、使い方によって読み方が変わる漢字を知ろうとしている。
					2	4. P105上段の設問を考え、それぞれの言葉の読み方を確かめ、話し合う。 ＊他の言葉や漢字とのつながりによっては、数詞や助数詞の読み方が変わることに気づくことができるようにする。 「一:いち→いっ」「百:ひゃく→びやく・びやく」「千:せん→ぜん」 「本:ほん→ぼん・ぼん」「匹:ひき→びき・びき」「羽:わ→ば・ば」など。 ＊上巻P122『かぞえよう』で学習した「足」「匹」「杯」などの助数詞の中から、「一足・三足」や「一匹・三匹」などのようにつながりによっては、読み方が変わるものを探してみる。 ＊「八行」で始まる助数詞は、数詞の読み方の変化が難しい。経験を通して慣れるようにさせたい。 5. P105下段の設問を考え、それぞれの言葉の読み方を確かめ、それらの言葉を使って短い文を作り、発表し合う。 ＊同じ漢字でも、単独で示される場合と、他の言葉と組み合わせた場合とでは、読み方が変化するものを、声に出したり、繰り返し読んだりすることによって言葉のリズムとして覚え、以後の日常生活に応用できるようにする。 ＊読み方の変化が多岐にわたるため、読み方が変わるものがあることに気づかせることに主眼をおく。 6. 学習したことを振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	8 (話す聞く8)	六 ききたい ことを おとさないように きこう はじめて した 学校の こと 教科書:P106 ◇学校で働いている人に、知りたいことを尋ねて、聞いたことをメモに書き、メモをもとにクラスのみんなに伝える。 ★ここが だいじ:はなしを ききに いく とき ☆学習用語:伝える／質問／メモ／お話／理由／様子／発表／気持ち	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)学校のことをみんなに伝えるという学習の見通しをもって「がくしゅうのすすめかた」をもとに学習計画を立てる。 ＊教科書を参考に、学校のことについていろいろな方に話を聞いて、クラスのみんなに伝えるという学習の流れをつかませ、意欲を高める。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ) ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A1)エ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア) 【態度】 ・進んで話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習課題にそって、初めて知った学校のことについてみんなに伝えようとしている。
					2	<きめよう・あつめよう> 2. 話を聞く相手と、聞きたいことを決める。 (1)先生や学校で働いている人のことを思い出し、話を一緒に聞きに行く友達と、話を聞きたい相手や聞きたいことについて決める。 ＊学校の絵地図などを用意して、1学期(前期)に行った学校探検を思い出させ、学校で働いている人たちがどこにいるか、行ったり見たりした経験を思い起こさせる。 ＊職員室・保健室・特別教室・校長室・事務室・給食室など、そこにいる大人が、どんな方で、どんなことをしているか想起させる。	
					3	<くみ立てよう> 3. 決めたことをもとに、メモを作る。 (1)P107の「2」とP109の「4」を読み、話を一緒に聞きに行く友達と決めたことをもとに、メモを作る。 ＊行き先を決めて分担し、一緒に行く友達どうしで、2～3人のグループを作り、どんなことを聞いてくるか話し合わせ、質問ごとに分担させる。	
					4	4. 一緒に聞きに行く友達と練習する。 (1)P107の「ここが だいじ」とP108の「3」を参考に、一緒に聞きに行く友達と聞くことを分担したり、相手に応じた言葉遣いを考えて練習したりする。 ＊グループで、入室の仕方や初めの挨拶などを確かめ、更に個別の質問の順番等を確認し、言葉遣いなどに気をつけて繰り返し練習して、アドバイスさせ合う。	
					5	<はなそう・きこう>(重点) 5. 話を聞きに行く。 (1)P109の「4」を読み、次時に聞いたことをメモに書くことを知り、実際に聞きに行く。 ＊ここでは、聞きながらメモを取るのではなく、次時に思い出して書くことに留意して、話してもらったことをきちんと聞き取ってくるようにさせる。	
					6	<つたえあおう> 6. 聞いたことを思い出してメモに書く。 (1)聞いたことを思い出しながら協力してメモを書く。 ＊聞いてきたことを思い出して、大事なことをメモに書いて確かめ合わせる。 (2)メモをもとにクラスのみんなに話すことを確かめ、話す順番を決めて練習する。 ＊みんなに話すことをはっきりさせて発表の練習をし合うように促す。	
					7	7. メモを見ながら、聞いてきたことをみんなに伝える。 (1)全員の前で、声の大きさや話す速さに気をつけて発表する。 ＊質問や感想を述べ合うようにさせる。	
					8	<ふりかえろう> 5. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 ＊全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 ＊大事なことを落とさないように、どんなことに気をつけて話を聞いたかを振り返らせる。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	3	ことばの ひろば③ ことばで つたえよう 教科書:P110 △目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し、言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 ☆学習用語:どんな／表す／様子／伝える	言語	1	1. 「言葉」について学ぶという学習内容を理解して、学習の見通しをもつ。 ＊好きな給食を言葉で言い表すことにより、感覚を伴った自分の言葉で表現することに気づかせる。 2. P110の絵を参考に、好きな給食を思い出し、自分の経験をもとにすることを理解する。 ＊説明したいものの絵を描きながら、絵に描いたものはどのように表現すればいいのか、色や味など表現したいものはなんなのかを焦点をはっきりさせるように声をかける。 3. 自分の描いた絵から食べ物の様子を思い出し、なるべく詳しく言葉で説明する。 ＊絵を見ながら、食べたときのことを思い出して、そのものを詳しく説明させる。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ 【態度】 ・進んで、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気づこうとし、学習課題にそって言葉で表そうしている。
				2	4. 書いた説明の文を見て、色や形などの見えるものの説明と味や食感などの見えないものの説明を分け、二種類の言葉の違いを考える。 ＊説明の文を読ませて、色や形など絵に描いてあることからわかりやすいものと、味や食感など絵を見ただけではわかりにくいものがあることに気づかせる。 5. 自分が描いた絵を見せながら食べたものの様子を発表し、伝える。 ＊二種類の言葉をうまく使いながら、聞いている人に伝わるように発表をするよう促す。		
				3	6. 好きな食べ物などを思い浮かべ、問題を作る。 ＊自分が好きな食べ物を選ぶことで、想起しやすく、楽しく表現できるようにする。 7. 絵に描けないものでも言葉では伝えることのできるおもしろさに気づき、いろいろなものを表現することに挑戦する。 ＊問題を作りながら、絵には描けなくても感覚を思い出しながら表現できる言葉のおもしろさに気づかせ、いろいろなものを表現したいという気持ちを引き出す。 8. 学習したことを振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	8 (書く8)	<p>七 まとまりに わけて かき、ぶんしょうの よいところを見つけよう おもい出の アルバム 教科書:P114</p> <p>■一年間の思い出のなかで、いちばん心に残っていることを、まとまりに分けてわかりやすく書き、書いた文章に対する感想を伝え合うことで、自分の文章の内容や表現のよいところを見つける。</p> <p>★ここがだいじ:まとまりに わけて かく</p> <p>☆学習用語:思い出す／メモ／文章／読み返す／まとまりにわけける／整理する</p>	書く	1	<p><見直しをもとう></p> <p>1. 1年間を振り返っていちばんの思い出を書き、友達や家の人に伝えるという学習活動を見直す。 ＊1年間の主な学習や行事などを想起できるように写真を提示するなど工夫し、興味・関心を喚起するようにしたい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ)</p> <p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>【態度】 ・進んで友達の文章のよさを見つけようとし、一年間のできごとを振り返って経験したことやできるようになったことなどを書き、友達と伝え合おうとしている。</p>
					2	<p><きめよう・あつめよう></p> <p>2. 伝えたいことを一つ選ぶ。 ＊題材選びは大切である。写真を取り上げて話し合ったり、ペアで題材を相談したりさせ、書きたいことを見つけられるようにする。見つけられない児童には、個別に指導するなど配慮が必要である。 ＊学級の実態に合わせ、書く目的を確認したり、伝える相手を決めたりする。 目的例:クラスの思い出文集にする／家の人に読んでもらい返事をもらう／隣の学級と交換して読み合う</p>	
					3	<p><<み立てよう></p> <p>3. 選んだ思い出をメモに書く。 ＊既習事項をメモの観点等に活用し、1年間の学習のまとめとしたい。 例:(P50「きこえてきたよ、こんなことば」)会話を取り入れる／(P51「ここがだいじ」)「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」をメモの観点とする／(P60「気持ちをかいて、よみかえそう」)「気持ちをかく」ことを確認する</p> <p>4. メモを整理し書く順番を決める。 ＊内容が似ているメモは近くに並べたり、まとまりに分けたりして書く順番を考えさせ、文章化の見直しをもたせる。 ＊適宜、メモを増やしたり題材を変えたりしてもよいことを伝える。</p>	
					4・5	<p><かこう>(重点)</p> <p>4. メモをもとに文章を書く。 ＊整理したメモをもとに文章を書く。 ＊P116例文を読んでよさや書くときに気をつけたいこと共有し、意識させる。 ＊書くときに既習事項を常に想起できるよう手引きや掲示などを工夫したい。<<み立てよう>にある例を参照。</p>	
					6	<p><よみかえそう></p> <p>5. 書いた文章を読み返す。 ＊書き終わったら、まず自分で声に出して読んでみる。推敲するポイントのチェック表などを用意し、自分で気づかせるようにする。 ＊参照:付録(P158・159「ぶんしょうをよみかえすとき」)</p>	
					7	<p><つたえあおう>(重点)</p> <p>6. 文章を読み合う。 ＊文章のよさに着目させ、感想を伝える。付箋紙に書かせて残すようにしてもよい。着目したい文章のよさを例示しておくもよい。 ＊友達以外の相手を設定したときは、相手に読んでもらい、できる限り感想をもらえるようはたらきかける。</p>	
					8	<p><ふりかえろう></p> <p>7. 相手からもらった感想をもとに、自分の文章を振り返らせる。 ＊1年間の学習のまとめとして、書くことでできるようになったことなどの気づきを促し、達成感をもって次の学習へ向かえるようにしたい。</p>	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	3	かん字の ひろば④ にている かん字 教科書:P118 △形の似た漢字を正しく読んだり、書いたりする。 ☆学習用語:部分	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊形の似ている漢字を正しく使い分け、書くことができるようにするという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「人」と「入」の形の似ているところ、違うところを考える。 ＊文例を声に出して読み、どこが変なのか話し合う。 ＊「人」「入」を使った言葉を集めて、発表する。 ＊筆順を確認し、字形の類似点と相違点を見つけ出し、「なぜ違うのか」などと探究心を刺激しながら指導を進めるようにする。 3. 「木」と「水」、「字」と「学」、「右」と「石」の似ているところと違うところを話し合い、字形に気をつけて、正しく書く。 ＊「木」と「水」、「字」と「学」、「右」と「石」など、概形が似ている漢字の異同に注意を向け、筆順に従って正しく書くことができるようにする。	【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態度】 ・積極的に漢字を読み、学習課題にそって、形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
					2	4. 字形の一部に同じ部分が含まれている漢字があることに気づき、それぞれの意味を確かめる。 ＊「大―犬」「中―虫」「王―玉」など、点画の有無で、別の漢字となることがあることを理解できるようにする。 5. 字形の一部に同じ部分が含まれている漢字の仲間集めをする。 ＊これまで学習した漢字の中から、「田」「木」「目」「口」が含まれている漢字を集め、それらを使って短い文を作る。	
					3	6. 形の似ている漢字を探し、意味や使い方を確かめ、話し合う。 ＊「十」と「七」、「力」と「九」、「上」と「土」、「山」と「出」、「本」と「文」、「月」と「目」などが考えられる。それらを使って短い文を作る。 ＊似ているところと違うところを確かめ、字形に気をつけて、正しく書く。 ＊巻末P166『かん字を学ぼう』を参考にして、ゲーム感覚で仲間集めをしてもよい。 7. 字形の一部に同じ部分が含まれている漢字を探し、仲間集めをする。 ＊「カ―男」「土―赤」「タ―名」「子―学・字」「日―早・草・音」「月―青」「立―音」などが考えられる。 ＊1年間で学んだ漢字を振り返り、筆順に従って正しく書くことができるようにする。 8. 学習したことを振り返る。	
3学期	2月	1	ことばの ぶんか② しりとりで あそぼう 教科書:P120 △「なかまのことば」だけでつないでいく「しりとり遊び」があることを知り、実際に活動してみる。	文化	1	1. しりとりのルールを確認する。 ＊「しりとり遊び」を経験していたとしても、簡単なルールを確認しておく。「ん」で終わる単語を選択すると、あとへは続かないというルールで、グループで「しりとり遊び」をする。 2. 絵を見ながらしりとりの言葉を確認し、それぞれなんの仲間かを発表し合う。 ＊教科書の挿絵で示されたしりとりの例から、仲間の言葉でつないでいく決まりになっていることに気づく。 ＊挿絵のそれぞれが、なんの仲間のグループになっているかを確かめ合う。 3. なんの仲間でしりとり遊びをするかを決め、グループでしりとり遊びを楽しむ。 ＊違う仲間の言葉でしりとり遊びをしたり、グループで言葉の仲間を決めたりして、しりとり遊びを楽しむ。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさ気付いている。(3)イ 【態度】 ・進んで音節と文字との関係に気づこうとし、今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	3月	15 (書く5)	<p>八 おはなしを よんで おもった ことをつたえよう お手がみ 教科書:P122</p> <p>□文章を読んで、自分の体験と結びつけて、感じたことやわかったことを共有する。</p> <p>★ここが大事:よんで おもった ことを まとめる ☆学習用語:順序／様子／場面／まとめ</p>	読む	1	<p><見通しをもとう> 1. 単元扉から学習の見通しをもつ。 * 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)</p> <p>【態度】 ・進んで物語の中の言葉のよさに気づき、学習課題にそって、自分の思いや考えを伝えようとしている。</p>
					2～5	<p><たしかめよう> 2. お話の内容の大体をつかみ、感想を伝え合う。 (1)がまくんとかえるくんの行動や、できごとの順序を確かめ、あらすじをつかむ。 * 範読後に登場人物のしたことや出来事の順序を整理する。 * 挿絵を使って順序を整理することで、あらすじをつかませる。 (2)心に残ったことを発表し合う。 * 物語の概要をつかんでから心に残ったことを伝え合う。 * 人によって好きな場面と理由が異なり、それぞれの場面のよさがあることに気づかせる。</p>	
					6～9	<p><<わしくよう> 3. 挿絵や本文の言葉から、場面の様子や変化を詳しく読む。 (1)P124・125のはじめとP132・133のおわりの場面の挿絵から、同じところと違うところを比べる。 (2)はじめとおわりで手紙を待つ場面がどのように変わったのか、挿絵と本文の言葉から考える。 * 手紙を待つ場面の挿絵を、はじめとおわりの2種類用意し、その時の登場人物の心情をふきだしに書かせ、比べることで変化を読み取らせてもよい。 * 2つの場面を比べるだけでなく、二人の登場人物の変化のきっかけとなる場面にも着目させることで、場面につながりがあることに気づかせたい。</p>	
					10～12	<p><まとめよう> 4. お話の好きな場面を選び、好きな場面に出てくる人に手紙を書く。 (1)お話の好きな場面を選び、そのわけを考える。 * お話を詳しく読むことで、それぞれの場面のよさや、初読<たしかめよう>(2)ではもてなかった感想をもてるようになることに気づかせる。 * お話を繰り返し読むことで一度読んだだけではわからなかったことや、言葉がもつよさに気づかせる。 (2)好きな場面の登場人物に向けて手紙を書く。 * 話の中の登場人物になりきって、がまくん、かえるくん、かたつむりくんの誰かに宛てて手紙を書かせる。 * 手紙を書く活動とおして、物語の世界に入り込んで楽しめるようにさせる。</p>	
					13・14	<p><つたえあおう> 5. 書いた手紙を友達と読み合う。 * お話を詳しく読むことで、それぞれの場面のよさや、初読<たしかめよう>(2)ではもてなかった感想をもてるようになることに気づかせる。 * 友達と手紙を読み合い、感じたことをクラスで共有し、同じ場面でも感じ方が違ったり、違う場面から似たようなことを感じ取ったりする物語の面白さを感じさせたい。</p>	
					15	<p><ふりかえろう> 6. この単元で学んだことを振り返る。 (1)はじめとおわりの違いを考えて読む時に気をつけたことを振り返る。 (2)友達を書いた手紙を読んで、自分の手紙に付け足したいことを考える。 * 友達の考えを聞くことで、改めて自分や友達の内容や表現のよいところを振り返らせたい。</p>	
3学期	3月	2 (話す聞く1・書く1)	<p>こくごの がくしゅう これまで これから 教科書:P140 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。</p>	書く	1・2	<p>1. どんな言葉を学んできたのか思い出す。 * 可能なら、上巻の教科書も用意し、上・下巻を合わせて振り返ることができるようになる。挿絵のふきだしや「この本で学ぶこと」を参考にする。 * 学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などがあれば、利用する。</p> <p>2. 思い出したことをみんなで交流し、共有する。 * 楽しかったこと、できるようになったことをグループで話し合い、たくさん思い出してメモさせる。 * 単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。</p> <p>3. 2年生でどんな学習をしたいか希望を出し合う。 * 2年生になって、「できるようになりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など、共有した思い出したことに对应させて、いろいろな観点で自由に出し合う。</p>	<p>【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態度】 ・進んで話題を決め、今までの学習を生かして思い出したことや2年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。</p>